

夢づくり政策評価（案）について

「新おかやま夢づくりプラン」の2年目となる20年度の実績について、各戦略プログラムごとにその達成レベルを5段階に分けて評価（案）を作成しました。

各プログラムの評価は、夢づくり協働指標の実績を基本にして、重点施策・事業の成果などを加味しながら、プログラム推進目標の進捗状況を総合的に判断して行っています。

なお、評価対象とプログラムの達成レベルは次のとおりです。

記

1 評価対象

- 「教育と人づくりの岡山」の創造 (10プログラム)
- 「安全・安心の岡山」の創造 (10プログラム)
- 「産業と交流の岡山」の創造 (10プログラム)

2 プログラムの達成レベル（5段階）

- レベル5 …… 目標水準を大きく上回った
- レベル4 …… 目標水準を上回った
- レベル3 …… おおむね目標水準
- レベル2 …… 目標水準を下回った
- レベル1 …… 目標水準を大きく下回った

夢づくり政策評価一覧表

基本戦略	戦略プログラム	H19 達成レベル	H20 達成レベル	備考
教育と人づくりの岡山 (平均 3.6)	1 子育て支援プログラム	4	4	
	2 子ども教育プログラム	3	3	
	3 青少年プログラム	3	4	
	4 生涯学習プログラム	4	4	
	5 人権プログラム	3	4	
	6 男女共同参画プログラム	3	3	
	7 文化プログラム	3	3	
	8 国民文化祭プログラム	4	3	
	9 スポーツプログラム	4	4	
	10 パートナーシッププログラム	4	4	
安全・安心の岡山 (平均 3.3)	1 安全・安心まちづくりプログラム	4	4	
	2 暮らしと交通の安全プログラム	4	4	
	3 災害対策・危機管理プログラム	3	3	
	4 自主防災プログラム	3	3	
	5 健康・医療プログラム	4	4	
	6 福祉プログラム	3	3	
	7 ユニバーサルデザインプログラム	3	3	
	8 水と緑プログラム	3	3	
	9 地球環境プログラム	3	3	
	10 都市・農村景観プログラム	3	3	
産業と交流の岡山 (平均 3.3)	1 地域産業プログラム	4	3	
	2 新産業プログラム	3	3	
	3 戦略的企業立地プログラム	4	2	
	4 観光プログラム	3	3	
	5 農林水産業プログラム	4	4	
	6 就労プログラム	3	4	
	7 交通基盤プログラム	3	3	
	8 ユビキタス実感プログラム	4	4	
	9 まち・むら活性化プログラム	3	3	
	10 国際化プログラム	4	4	

夢づくり政策評価シート一覧

平成21年7月

夢づくり政策評価一覧表

基本戦略	戦略プログラム		H19 達成レベル	H20 達成レベル	所管部局	頁
「教育と人づくり の岡山」の創造	1	子育て支援プログラム	4	4	保健福祉部	1
	2	子ども教育プログラム	3	3	教育庁	3
	3	青少年プログラム	3	4	生活環境部	5
	4	生涯学習プログラム	4	4	教育庁	7
	5	人権プログラム	3	4	産業労働部	9
	6	男女共同参画プログラム	3	3	生活環境部	11
	7	文化プログラム	3	3	生活環境部	13
	8	国民文化祭プログラム	4	3	生活環境部	15
	9	スポーツプログラム	4	4	生活環境部	17
	10	パートナーシッププログラム	4	4	生活環境部	19
「安全・安心の 岡山」の創造	1	安全・安心まちづくりプログラム	4	4	生活環境部	21
	2	暮らしと交通の安全プログラム	4	4	警察本部	23
	3	災害対策・危機管理プログラム	3	3	総務部	25
	4	自主防災プログラム	3	3	総務部	27
	5	健康・医療プログラム	4	4	保健福祉部	29
	6	福祉プログラム	3	3	保健福祉部	31
	7	ユニバーサルデザインプログラム	3	3	企画振興部	33
	8	水と緑プログラム	3	3	生活環境部	35
	9	地球環境プログラム	3	3	生活環境部	37
	10	都市・農村景観プログラム	3	3	生活環境部	39
「産業と交流の 岡山」の創造	1	地域産業プログラム	4	3	産業労働部	41
	2	新産業プログラム	3	3	産業労働部	43
	3	戦略的企業立地プログラム	4	2	産業労働部	45
	4	観光プログラム	3	3	産業労働部	47
	5	農林水産業プログラム	4	4	農林水産部	49
	6	就労プログラム	3	4	産業労働部	51
	7	交通基盤プログラム	3	3	土木部	53
	8	ユビキタス実感プログラム	4	4	企画振興部	55
	9	まち・むら活性化プログラム	3	3	企画振興部	57
	10	国際化プログラム	4	4	企画振興部	59

夢づくり政策評価シート

整理番号	101
担当部局	保健福祉部

1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	子育て支援プログラム
プログラムの概要	少子化の流れを変え、次代を担う子どもたちが、心身ともに健やかに生まれ育ち、家庭や地域で心豊かに生活できるよう、母子保健・医療対策の充実や、地域ぐるみの子育て支援の推進、きめ細やかな保育の充実、児童虐待防止対策の推進などを進め、安心して子どもを生み育てる環境づくりに取り組みます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
地域子育て支援拠点数	箇所	73	110	86	90					
(指標の説明)子育て中の親子が集まって情報交換や交流をしたり育児相談ができる地域の子育て支援拠点の数を表すもの										
乳児保育実施箇所数	箇所	274	310	292	309					
(指標の説明)全保育所のうち、乳児を受け入れることができる保育所数を表すもの										
延長保育実施箇所数	箇所	278	310	278	287					
(指標の説明)開所時間を延長し、保護者の就労時間、通勤時間など実情に応じた延長保育を実施している保育所数を表すもの										
放課後児童クラブ設置数	クラブ	289	330	315	338					
(指標の説明)児童館・児童センター、保育所や学校の空き教室等地域住民に最も身近な社会資源を利用して、昼間保護者のいない小学校低学年児童に対し、育成・指導・遊びによる発達助長などのサービスを行う児童クラブの設置数を表すもの										

3 代表的な取組(Ⅰ)

子どもが健やかに生まれ育つ社会全体の気運の醸成

※
子育て家庭を応援する「ももっこカード」の普及促進、従業員の子育てや地域の子育てを応援する「おかやま子育て応援宣言企業」の募集・登録を行った。

※ 妊娠中の方、小学校第6学年までの児童を持つ家庭が対象のカードで、協賛店舗等で料金割引サービスなどが受けられる

〈協働の成果〉

市町村、学校、保育所等の協力により、「ももっこカード」の対象家庭へのさらなる普及が図られるとともに、地域の商店や企業・事業所、市町村との連携により、協賛店舗や子育て家庭を支援する企業が増加した。

(参考数値)

ももっこカード 協賛店舗数	H19	H20	増減
	1,333	1,710	377
おかやま子育て 応援宣言企業 登録数	H19	H20	増減
	50	156	106



「おかやま子育て応援宣言企業」岡山県知事賞:
http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=29869

3 代表的な取組(Ⅱ)

周産期医療体制の充実

総合・地域周産期母子医療センターを中心として、医療機関相互の協力・連携により体制を整備し、妊娠、出産から新生児に至るまで高度な周産期医療を効果的に提供することができた。また、ハイリスク妊婦等の分娩を地域のかかりつけ医師の立ち会いのもと、施設と人員の整ったオープン病院で行うなどの病診連携システムの構築を推進した。

〈協働の成果〉

医療機関相互の協力・連携による周産期医療システムの構築や病診の連携促進により、安心して妊娠・出産できる体制の整備・充実が図られた。

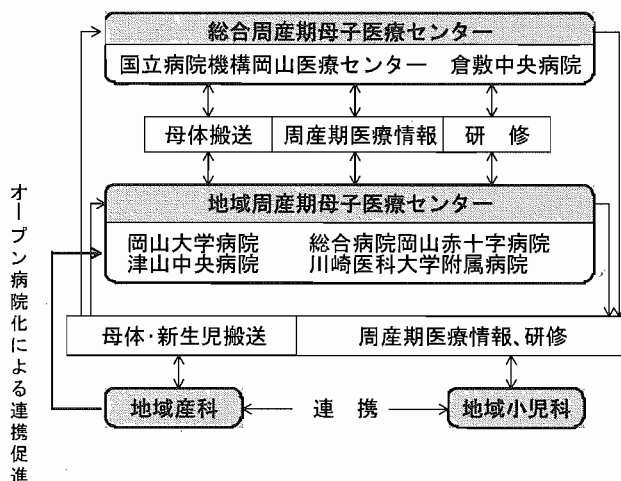
(参考数値)

周産期死亡率	H19	
	全国	県
	4.5	3.3 (第3位)

周産期：出産を中心として妊娠後期(満22週)から新生児早期(生後満7日未満)までの時期

周産期死亡率：年間1000出産に対する周産期死亡の比率

岡山県の周産期医療体制



4 取り組むべき課題と対応方針

○発達障害のある子ども(人)の支援体制の整備

教育部門や労働部門等との連携をさらに進め、発達障害に係る各ライフステージにおける継続的な支援体制づくりを推進する。

○児童虐待防止対策の強化

法改正により、市町村要保護児童対策地域協議会の支援対象がハイリスク妊婦等にも拡大されたことから、対応する市町村職員の専門性の向上を図るため、実践的な虐待相談対応技術の向上を目的とした研修会を開催するなど、さらなる支援強化を図る。

5 総合評価

医療提供体制の整備や各種母子保健事業等の推進、地域における子育て支援の体制づくり、相談体制をはじめとする社会環境づくりなど、地域や企業・事業所、NPOやボランティア、関係団体や市町村などとの協力により、様々な角度から「新岡山いきいき子どもプラン」の総合的な推進が図られており、目標水準を上回った。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
4	4			
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

夢づくり政策評価シート

整理番号	102
担当部局	教育庁

1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	子ども教育プログラム
プログラムの概要	子どもたち一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた個性や能力の伸長、優れた教員の育成に努めるとともに、市町村や学校の自主性・自立性を高めつつ、創意工夫を生かした特色ある教育活動に取り組みます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
学校生活に満足している生徒の割合	%	79	80	79	81					
(指標の説明)学校生活に満足している高校生の増加を目指すもの										
中高一貫教育・総合学科等の新しい形態の学校数	校	24	29	27	27					
(指標の説明)学校教育における子どもの選択肢の拡大を目指すもの										
県立学校の授業等を支援している外部人材の数	人/年	1,548	1,650	1,777	1,963					
(指標の説明)児童生徒の確かな学力の向上を目指すもの										
特別支援学校※教諭の専門免許取得率	%	52.1	60	66.6	66.8					
(指標の説明)特別支援学校教諭の該当領域の教員免許の取得率向上により、専門性の高い教育を目指すもの ※特別支援学校は、盲・聾・養護学校から名称変更されたもの(H19.4～)										

3 代表的な取組(Ⅰ)

◆子どもたちの確かな学力の育成と教職員の指導力の向上

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、教員の意識改革と指導力の向上、子どもたちの学習意欲の喚起と確かな学力の向上を図るために、「岡山県学力向上アクションプラン」を実施した。

岡山県学力向上検討委員会(県教委・市町村教委・大学教官・民間人等で組織)

○小学校から高等学校までを見通した学力向上の方向性を検討 ○「岡山県学力向上アクションプラン」等の検証

(1) 授業改革支援事業(小・中学校対象)

- 授業改革協力員の指定(101名):地域の授業改革の核として研究授業の公開等を実施
- 授業改革研究指定校(小12校、中6校):地域の学力向上の拠点校として授業研究の推進
- 算数・数学アドバイザーの派遣(12名):小規模校等に退職教員等を派遣し、授業改革を支援
- 授業展開の好例を集めた素材集(公募等)の作成

(2) 学習到達度確認テストの作成とデータ処理システムの活用(小・中学校対象)

- 小1から中3までの、算数・数学の単元ごとと年度末のテスト問題の作成、Webページへの掲載
- データの集計・グラフ表示等による学習のつまずきの把握と指導の改善

(3) 授業力のミドルリーダーの育成(高等学校対象)

- 教科指導にすぐれた教員(国・数・英、各4人)による研究授業の公開等の実施
- 高校生セミナーでの授業実践

・教育庁指導課HP

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=146

<協働の成果>

大学教員など専門性の高い有識者による指導(授業改革研究指定校・授業力のミドルリーダー育成)や退職教員(算数・数学アドバイザー)の的確な助言により、各学校での授業改善が進み、教員の指導力の向上や児童生徒の学習意欲の喚起につながった。



算数・数学アドバイザーによる授業の様子

3 代表的な取組(Ⅱ)

◆特別支援教育の推進

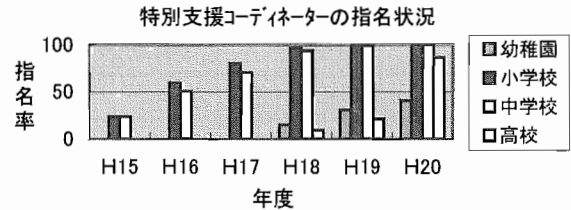
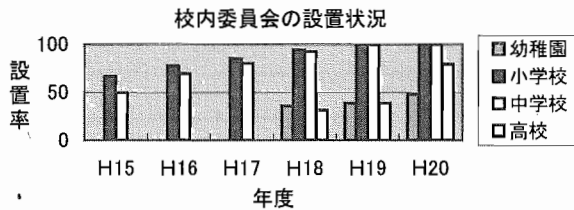
(1)小・中・高等学校等における校内支援体制の整備

○平成20年度校内委員会の設置率

小学校:100%(H19:100%) 中学校:100%(H19:100%) 高等学校:79.4%(H19:38.6%)

○平成20年度特別支援教育コーディネーターの指名率

小学校:100%(H19:100%) 中学校:100%(H19:99.4%) 高等学校:86.7%(H19:21.4%)



(2)発達障害児への対応

○巡回相談員(特別支援学校教員等)や専門家チーム(大学教員等)の派遣

指導内容、方法等に関する指導、助言

○「発達障害支援推進校」の指定(高等学校12校)

校内支援体制の整備の推進や適切な指導・支援の充実を図ることができるよう、特別支援教育コーディネーターやミドルリーダーを中心とした研修会等を実施

(3)特別支援学校の整備

○岡山瀬戸高等支援学校の設置(H20.12)

○倉敷地域新設高等特別支援学校(仮称)の平成22年度開校に向けての準備

(4)教育環境の整備

○岡山東養護学校分教室整備

○誕生寺養護学校校舎等整備

(5)岡山県特別支援教育推進プランの策定(計画期間:H21~25)

・教育庁指導課特別支援教育室HP http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=147

<協働の成果>

大学教授、医師、臨床心理士等で構成された専門家チームの派遣で、大学や医療機関等との連携により幅広く地域の人材を活用することができた。

(参考数値)

高等学校の専門家チームの派遣学校率(%)	H19	H20	増減
	17.1	29.4	12.3



岡山瀬戸高等支援学校 開校式・入学式

4 取り組むべき課題と対応方針

○子どもたちの確かな学力の向上

全国学力・学習状況調査の結果から、学習習慣や家庭学習にかかわる項目、習熟の程度に応じた指導にかかる項目に課題が見られた。

子どもたちに対しては、基礎・基本の確実な定着と、学んだ知識や技能を実生活で活用できる力の育成を図ることが重要である。また、教職員には、子どもたちが興味を持ち、分かる授業や、学習内容を確実に身に付けさせる指導力の向上が求められており、引き続きこれらの推進に努める。

○今後の特別支援教育施策

平成20年度末に策定した、「岡山県特別支援教育推進プラン」に基づき、全県的視野に立った特別支援学校の教育体制の整備や小・中・高等学校等における特別支援教育の充実に向けた施策に取り組んでいく必要がある。

5 総合評価

夢づくり協働指標の達成状況は順調で、目標の達成が十分見込まれる水準にあると考えられる。

子どもたちの確かな学力の向上については、引き続き、岡山県学力向上アクションプランに基づき、諸施策の実施・検証に取り組む必要がある。

特別支援教育については、校内支援体制や教育環境の整備を計画的に実施するとともに、今後5年間を計画期間とする「岡山県特別支援教育推進プラン」を策定したところであり、今後も着実に取組を進めたい。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
3	3			
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

夢づくり政策評価シート

整理番号	103
担当部局	生活環境部

1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	青少年プログラム
プログラムの概要	子どもたちが心身ともに健やかに成長できるよう、道徳教育や体験活動等を推進し、家庭や地域社会の教育力の向上等を図るとともに、子どもの健康増進と体力づくりに努めます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
毎日朝食を食べている子どもの割合	%	81	86	81	84					
(指標の説明)子どもたちの望ましい食習慣の確立を目指すもの										
様々な体験学習に参加した青少年の数	人/年	102,205	112,000	110,736	121,593					
(指標の説明)子どもたちの豊かな心や健やかな成長の促進を目指すもの										
家庭教育相談員の養成数	人	474	780	658	690					
(指標の説明)家庭教育のあり方について、様々な場面で相談に乗ることができる人材の育成を目指すもの										
非行率	人/年	14.4	11.5	11.8	11.3					
(指標の説明)刑法犯で検挙・補導される少年の減少を目指すもの										
小・中学校の給食における県産農林水産物の使用割合	%	34.0	40.0	41.0	44.7					
(指標の説明)学校給食への地場産物の活用を通して、子どもの食育の推進を目指すもの										

3 代表的な取組(Ⅰ)

◆ ケータイネット問題対策への取組

携帯電話等の利用実態調査結果を踏まえ、ケータイネットに潜む危険性について保護者等の理解を深めるため、保護者向けのリーフレットを配布するとともに、講演会・研修会の開催、青少年健全育成促進アドバイザーの派遣、携帯電話等に係る犯罪被害防止講話等を実施した。また、NPO法人との協働によりインストラクターの養成に取り組んだ。

携帯電話の正しい利用についてHP

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=24404



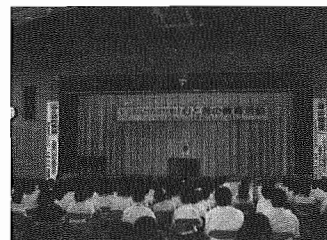
考えよう！子どもとケータイ

◆ 心と命の教育活動の推進

県内のNPO法人等との協働により、犯罪被害者遺族等が自らの体験を語りかけて「命の尊さ」と「人を思いやる心の大切さ」を訴える講演会を開催するなど、子どもを犯罪の被害者にも加害者にもしないための「心と命の教育活動」を推進し、少年の規範意識の向上を図った。

心と命の教育活動HP

<http://www.pref.okayama.jp/kenkei/seian/syonen/volunteer/gakko.htm>



心と命の教育活動

(参考数値)

心と命の教育活動実施回数	H19	H20
	1,117	1,331

<協働の成果>

NPO法人や青少年育成団体などとの協働により、ケータイネット問題の周知、少年の規範意識の向上や命の大切さの理解を深めるための教育活動などの実施に努めた。

3 代表的な取組(Ⅱ)

◆ 青少年の体験活動を支援する取組

青少年が、自然体験活動・スポーツ・文化活動・地域住民との交流活動等に積極的に取り組めるような環境の醸成に努めるとともに、その活動を支援するリーダー養成にも取り組んだ。

生涯学習課HP http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=149

(1) 放課後子ども教室推進事業

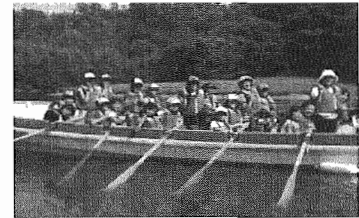
放課後や週末等に、小学校の余裕教室や公民館等を活用して、安全・安心な活動拠点(居場所)をつくり、地域の方々の参画を得て、様々な体験活動・交流活動等の取組を推進した。



放課後子ども教室「川あそび」

(2) 地域のヤングリーダー養成事業

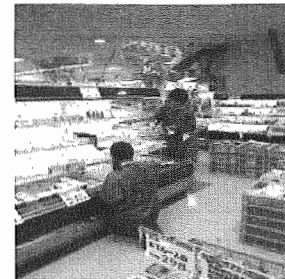
公民館・図書館・児童館などの地域の施設において、子どもたちに遊びやものづくり、スポーツ等を教える中・高校生・大学生などのボランティア(地域のヤングリーダー)の養成に取り組んだ。



ヤングリーダーによるカッター指導

(3) チャレンジワーク14

中学生が地域の事業所などで3日程度の職場体験活動を経験する中で、共に生きる心や感謝する心をはぐくむとともに、望ましい職業観や勤労観を持ち、自らの将来の生き方を考えるなど、豊かな心の育成が推進された。



チャレンジワーク14活動風景

<協働の成果>

放課後子ども教室の実施、地域のヤングリーダーの育成、中学生の職場体験の受け入れ等社会全体で子どもをはぐくむ気運の醸成に向けて、地域と協働で取り組んだ。

4 取り組むべき課題と対応方針

○ 多様化する青少年問題への対応

「青少年問題を考え、行動する100人委員会」などと協働して、多様化する青少年問題に対応した施策を推進するとともに、社会的に自立した青少年の育成を目指して、青少年対策を総合的に推進していく必要がある。

○ ケータイネット問題への対応

出会い系サイト事件や「ネットいじめ」等、青少年を取り巻くケータイネット環境は、大人が問題等に気づきにくいことから、引き続き、青少年や保護者を対象とした啓発活動や学校での情報モラル教育の一層の充実などに取り組んでいく必要がある。

5 総合評価

知事部局、教育委員会、警察本部が連携を強化しながら、家庭、地域、学校の教育力の向上を目指して重点的に取り組んだ。

夢づくり協働指標の目標値を実績値が超えたものもあり、全体としては目標水準を上回ったと考える。

しかし、不登校、いじめ、非行等が依然として憂慮すべき状況にあり、引き続き取組を進める必要がある。

プログラム達成レベル

	H19	H20	H21	H22	H23
	3	4			
	5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

夢づくり政策評価シート

整理番号	104
担当部局	教育庁

1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	生涯学習プログラム
プログラムの概要	誰もが生涯にわたって、いつでも、どこでも自由に学習でき、成果を生かすことができるよう、学習機会の充実を図るとともに、全国生涯学習フェスティバルの開催を契機とし、生涯学習による地域社会づくりを推進します。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
生涯学習の講師・ボランティアとして登録している者の数	人	2,950	3,800	3,055	3,525					
(指標の説明)学習機会の充実などの環境づくりがどの程度広がりを見せているか表すもの										
公的な生涯学習講座への参加者数	人/年	1,098,873	1,300,000	1,147,676 (フェス811,000)	1,227,795					
(指標の説明)多様な学習活動への参加者が、増加することを目指すもの										
県民が1年間に公立図書館から借りた本の数	万冊/年	987	1,200	1,105	1,124					
(指標の説明)学習拠点としての公立図書館の、県民利用者の増加を目指すもの										

3 代表的な取組(Ⅰ)

◆「全国生涯学習フェスティバル」の成果の継承

県民フェスティバル開催事業「おかやま学びフェスタ2008」

第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」の成果を継承し、学びの成果や生涯学習によるまちづくり等に関する様々な参加型の発表・交流の機会を全県レベルで開催することにより、各種生涯学習実践団体等の活動の活性化を目指すとともに、生涯学習の一層の推進を図った。

期日 平成20年11月9日(日)

場所 岡山県生涯学習センター

内容 ・チャレンジ体験コーナー ・ステージ発表 ・子ども読書コーナー
 ・学びのコーナー ・ポスターセッション など

「まなびピア岡山」に参加した団体等を中心に出演・出展を呼びかけるとともに、学生ボランティアの参加も得て企画・運営を行うなど、行政、各種団体、学校、ボランティア等との協働によって開催し、子どもから高齢者まで幅広い世代から約3,000名の参加があった。

この大会の開催を通じ、様々な機関や団体等とのネットワークが一層拡充し、生涯学習推進組織の充実が図られた。

※その他の成果継承事業

シニアパワーで“ほっと”な地域社会づくり事業
 (市町村における地域社会づくりへの支援事業)

いきいき生涯学習ボランティア活用! 事業
 (実践的なボランティアの養成研修・活用事業)



「おかやま学びフェスタ2008」の様子

「おかやま学びの輪」ホームページ

<http://www.pref.okayama.jp/kvoiku/svogai/net/network.htm>

(参考数値)

	H19	H20	増減
おかやま学びの輪※登録団体	67	123	56

<協働の成果>

市町村、企業、学校、NPO等民間団体等との協働により、生涯学習活動の取組が促進された。

※生涯学習活動や地域社会づくり等を行っている機関、団体、企業等で構成するネットワーク

3 代表的な取組(Ⅱ)

◆県立図書館機能の充実

平成16年に開館した県立図書館は、入館者数等が全国の都道府県立図書館でトップとなるなど好調な利用状況であるが、さらに県民に親しまれる図書館となるよう、機能の充実を図る取組を行っている。平成20年度は、県立高等学校等への資料搬送を全校に拡大し、県内図書館との相互貸借を拡充するなど利用者の利便性向上を進めた。

また、県内図書館の中核的機能を持たせるため幅広い資料の収集や全県域を対象にしたサービスを充実させたほか、図書館ボランティアの養成を図るなど、県民の学習活動支援に取り組んだ。

資料搬送システムの充実等利便性向上の取組

- ・県内高等学校への搬送事業実施 91校:13,736冊(50校増:6,491冊増)
- ・県内図書館との相互貸借の増加 県立図書館からの貸出 40,387冊(9,384冊増)
- ・インターネット予約冊数の増加 73,869冊(12,951冊増)

資料等の充実

- ・蔵書冊数の増加 998,118冊(67,244冊増)
 - ・横断検索システム対象蔵書冊数 8,228,668冊(965,492冊増)
 - ・郷土情報ネットワーク登録件数 78,347件(10,111件増)
 - ・レファレンスデータベース登録件数 3,214件(224件増)
- ()内は、前年度比

全国の都道府県立図書館でのトップレベル項目

- ・購入冊数 49,125冊
- ・来館者数 1,065,031人
- ・個人貸出冊数 1,305,891冊 (H20年度実績)

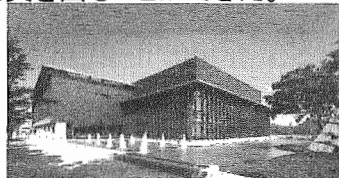
岡山県立図書館ホームページ <http://www.libnet.pref.okayama.jp/>

<協働の成果>

図書館における読み聞かせなどのボランティアの養成、研修を行い、協働で図書館機能の充実を図ることができた。

(参考数値)

	H19	H20	増減
県立図書館 個人貸出冊数	1,204,435	1,305,891	101,456



県立図書館全景



児童図書コーナー

4 取り組むべき課題と対応方針

○官民協働による生涯学習の推進を通じた地域社会づくり

全国生涯学習フェスティバル(まなびピア岡山2007)開催による成果を踏まえ、より多くの県民が地域社会づくりに参画し、共に支え合う自立した地域社会の形成を目指す生涯学習を、官民協働により推進することが課題である。その際、県民だけでなく、各種機関・団体、NPO、学校、企業等が社会の構成者として積極的に役割を果たすことが必要である。

なお、その具体的な方策については、平成21年度に、県生涯学習審議会答申を受けて策定する「第3次岡山県生涯学習推進基本計画(仮称)」の中で明らかにすることが課題である。

○講師・ボランティア登録者数

NPOセンターや社会福祉協議会、大学等とも積極的に連携しながら、生涯学習に関わる講師・ボランティアとして活躍している人へ岡山県生涯学習情報提供システム「ばるネット岡山」登録を呼びかけるとともに、生涯学習大学で学んだ人への登録の呼びかけを強化し、学習の成果を積極的に生かすことのできる環境整備の一層の充実を図る。

5 総合評価

夢づくり協働指標の達成状況は順調で、目標の達成が十分見込まれる水準にあると考えられる。

特に、「おかやま学びフェスタ2008」等の開催、大学コンソーシアムの取組等を通じ、官民の連携・協働による学習機会の充実、学習活動への参加や、人材育成、地域社会づくり等を推進することができた。また、県民が1年間に公立図書館から借りた本の数や図書館間の相互貸借冊数、公立図書館等への支援用図書の利用状況は増加しており、県民の学習拠点としての県立図書館の役割は大きい。

今後も目標の達成に向け、着実な取組を進めたい。

プログラム達成レベル

	H19	H20	H21	H22	H23
	4	4			
	5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

夢づくり政策評価シート

整理番号	105
担当部局	産業労働部

1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	人権プログラム
プログラムの概要	すべての人々が差別意識を持たず、社会の一員としてお互いに尊重し、支え合う地域社会づくりを目指して、県民の人権意識の高揚を図るとともに、人権尊重の視点であらゆる行政施策の推進に努めます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
人権情報コーナーの設置数	箇所	0	500	111	185					
(指標の説明) 公民館や図書館などの公共施設に、人権啓発資料のためのパンフレットスタンドを設置するもので、人権に関する情報発信を目指すもの										
人権啓発・教育リーダー数	人	115	300	219	258					
(指標の説明) 人権啓発・教育活動を一層推進するため、講師、助言者等として人権啓発・教育活動に取り組みリーダーの養成を目指すもの										

3 代表的な取組(I)

■人権啓発の充実

・人権情報コーナーの設置

地域社会に密着した人権啓発を推進していくため、県・県教委出先機関、隣保館、公民館、図書館等の公共施設に、パンフレットスタンドを設置し、様々な人権に関する情報を発信した。

・人権週間を中心とした啓発事業

ハートフルフェスタ2008のほか、様々な人権課題を担当する人権啓発マトリックス各課の主催による人権週間協賛事業を実施した。

・ハートフルフェスタ2008: 児童生徒人権啓発ポスター及び中学生人権作文コンテスト表彰式、朗読とトークとピアノの引き語り、人権啓発資料展、パネル展等

・人権週間協賛事業: 多文化共生講演会、犯罪被害者週間連続講座、青少年問題講演会、ハンセン病映画上映会等



ハートフルフェスタ2008
児童生徒人権啓発ポスター等表彰式

・人権啓発パートナーシップ事業

NPO法人の行う人権啓発事業を支援することにより、民間団体との協働による人権尊重意識の高揚を図った。

〈協働の成果〉

地域で人権意識の高揚を目的に活動しているNPO法人(17団体)と協働し、様々な人権テーマを取り上げた啓発事業を県内各地で開催した。

(参考数値)

パートナーシップ事業を実施したNPO法人数	H19	H20	増減
	10	17	7

・ハートフルネットおかやま

<http://www.pref.okayama.jp/sangyo/jinken/net/index.html>

・人権施策推進課(人権情報コーナー)

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=14352

3 代表的な取組(Ⅱ)

■人権教育の取組

・人権教育・啓発指導者養成講座

同和問題やハンセン病、インターネットによる人権侵害等の現代社会を取り巻く様々な人権課題を取り上げ、講義、現地研修、交流、ワークショップ等の形式で、講座Ⅰを年間6回、その修了者を対象にした講座Ⅱを年間2回開催した。

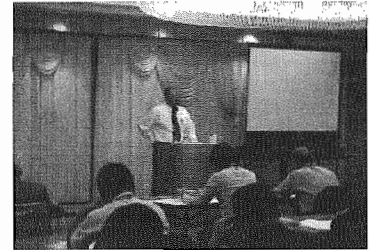
○平成20年度に開講したテーマの一例

講義「中国残留邦人の概要について」

(講師:中国帰国者支援・交流センター中四国支部次長 清古英俊氏)

受講者の声

- ・「在住外国人の人権課題と違って、これまで取り上げられなかった人権課題であり、歴史的背景、帰国者の生活の現状、支援の在り方など具体的な課題が理解できた」
- ・「以前に比べて報道も低調になってきており、情報に接する機会も少なくなっている現在、改めて課題意識を持つことができた」



講義の様子



プログラム作成の様子

演習「研修プログラムをつくってみよう！」

- ・人権課題に関するQ&Aづくり
- ・研修プログラム作成
- ・効果的な人権教育・啓発の在り方、手法についてグループ協議

<協働の成果>

民間団体の職員等を研修講師として招き、リーダーの養成に努めるなど、協働の取組は進んだ。

(参考数値)

人権啓発・教育 リーダー数(累 計)	H19	H20	増減
	219	258	39

・教育庁人権教育課

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=153

4 取り組むべき課題と対応方針

○人権啓発の充実

地域に密着した啓発を行う必要がある。このため、地域で人権啓発に取り組むNPO法人との連携・協働を一層進める。また、人権問題が多様化・複雑化していることから、関係部・課が連携を図り、人権啓発を総合的、効果的に進める。

○人権教育の取組

家庭、学校、地域等様々な場を通じて、一人ひとりの人権尊重の意識を高める必要がある。このため、市町村やNPO法人等と連携した効果的な取組を推進する。

5 総合評価

	プログラム達成レベル				
	H19	H20	H21	H22	H23
ハートフル講座等のイベントやNPO法人・県民等との協働事業の実施など、各種人権啓発事業や人権教育・啓発指導者養成講座の開催等により、人権啓発の総合的、効果的な推進を図ることができており、プログラムの達成が概ね見込まれる水準と考えられる。	3	4			
また、夢づくり指標については、人権啓発・教育リーダー数は計画を上回り、人権情報コーナーの設置についても着実に実施している。	5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

夢づくり政策評価シート

整理番号	106
担当部局	生活環境部

1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	男女共同参画プログラム
プログラムの概要	男女が対等な社会の構成員として、様々な社会活動に参画する男女共同参画社会の実現を目指して、男女の意識改革を促進するとともに、女性のチャレンジ支援、男女共同参画推進センター(ウィズセンター)の充実などを進めます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
管理職に占める女性の割合<民間企業>	%	15.5	25	16.3	16.3					
(指標の説明) 係長職以上に就いている女性の割合を増やし、企業の方針等の決定過程への参画促進を目指すもの										
<一般職公務員>	%	6.7	10	6.1	7.1					
(指標の説明) 県と市町村の一般職公務員で管理職に就いている女性の割合を増やし、行政分野の政策等決定過程への参画促進を目指すもの										
<教育職公務員>	%	21.5	25	21.9	22.4					
(指標の説明) 校長職等に就いている女性の割合を増やし、教育方針等決定過程への参画促進を目指すもの										
男性の育児休業取得率	%	0.2	2.5	0.4	0.4					
(指標の説明) 子育てと仕事が両立でき、男女がともに出産・子育てがしやすい職場づくりを目指すもの										
配偶者等からの暴力防止啓発講座等受講者数	人	1,069	4,700	2,509	3,007					
(指標の説明) 重大な人権侵害であるDVへの認識を広め、暴力を許さない環境づくりを目指すもの										

3 代表的な取組(Ⅰ)

■DV対策の推進

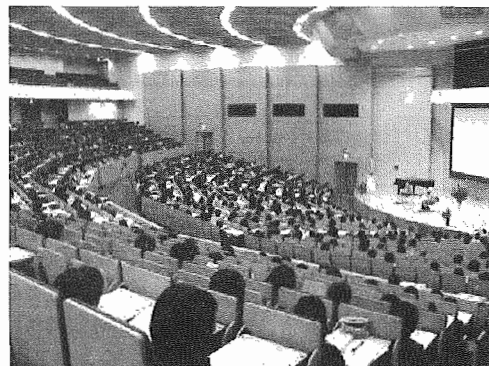
配偶者等からの暴力(DV)は重大な人権侵害である。社会全体の問題として、ひとりでも多くの人々が、DVに対する正しい理解と知識を持ち、DVをはじめとする暴力を許さない環境づくりを目指すため、啓発用DVDの作成やデートDV防止啓発ポスターの掲出やカード等の配布を行うとともに、全国シェルターシンポジウムを開催するなど、啓発活動に取り組んだ。

啓発用DVDの視聴HP http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=32950

デートDV防止啓発資料の掲載HP http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=31230

○「全国シェルターシンポジウム2008inおかやま」の開催

平成20年11月22日～23日、川崎医療福祉大学(倉敷市)において、DV被害者の支援者、行政関係者、研究者等が一堂に会し、「第11回全国シェルターシンポジウム2008inおかやま」が開催された。開催にあたっては、DV被害者の支援活動を行っているNPOが中心となり、県、岡山市・倉敷市、教育委員会や警察等多くの行政機関等が連携し、それぞれの特性を生かしながら企画・運営が行われた。



<協働の成果>

協働して大会を開催したことで、支援団体と行政との共通認識や連帯感が一層深まるとともに、参加者から高い評価を得た。また、県内外に改めてDV防止・根絶を広くPRすることができた。

3 代表的な取組(Ⅱ)

■男女共同参画意識の啓発

男女共同参画社会を実現するため、あらゆる分野への女性のチャレンジを支援するとともに、これまで男性の取組が少なかった分野に男性の進出を促し、男女共同参画意識の啓発を行った。

1 「女性のチャレンジ応援サイト」の開設

様々な分野にチャレンジしたい女性が必要とする情報を効率的に入手できる総合情報サイトを開設した。国、県や市町村等各種事業の情報を掲載するほか、次の一步を踏み出すためのヒントとなる身近な事例を紹介し、「チャレンジしたい!」という気持ちと行動を応援することを目指している。

女性のチャレンジ応援サイトHP

<http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/danjosankaku/challenge/index.html>



2 男性向け啓発資料「Men's Class」の作成

育児、家事、介護など女性に比べ男性の参画が進んでいない分野への男性の参画を促進するとともに、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の考え方を広めるため、男性を対象とした啓発冊子を作成した。

「Men's Class」冊子の掲載HP

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=31938



<協働の成果>

資料の作成・配布に際し、国や市町村をはじめとする多くの関係機関と連携したことにより、女性のチャレンジや男性の意識改革について、関係機関との共通認識が深まったと考えられる。

4 取り組むべき課題と対応方針

○政策・方針決定過程への女性の参画促進

政策や方針の決定に関与する管理職において、女性の登用が一層積極的に行われるよう、国等と連携して、企業や団体等に対して広く働きかける必要がある。

○仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の促進

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の促進は、一人ひとりの満足度はもちろん、少子高齢化対策や経済活動等、様々な分野にかかる重要な課題であるため、一層、啓発・広報を充実させる必要がある。

5 総合評価

夢づくり協働指標の進捗(達成)状況については、一部の指標について低調なものもあるが、男女共同参画社会の実現に向けて、ウィズセンターが実施する講演会等を通じた意識啓発、政策・方針決定過程への女性の参画促進、市町村における男女共同参画基本計画・条例の策定支援、NPO等と協働してのDV対策等に着実に取り組んだ。

プログラム達成レベル

	H19	H20	H21	H22	H23
	3	3			
	5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

夢づくり政策評価シート

整理番号	107
担当部局	生活環境部

1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	文化プログラム
プログラムの概要	心豊かな地域社会の実現を図るため、県民が優れた芸術や豊かな伝統文化を享受し、文化活動が活発に行われる仕組みづくりに取り組むとともに、個性豊かな地域文化の継承や新しい文化の創造に努めます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
県内の文化団体数	団体	945	1,030	936	936				
(指標の説明)県民の主体的な文化活動が活発に行われていることを示す一つの指標として、文化団体の団体数の増加を目指すもの									
公募による展覧会への応募作品数	点/年	3,215	3,750	3,223	3,237				
(指標の説明)県民が自ら芸術文化の創造に活発に取り組んでいることを示す一つの指標として、県内最大の公募展である岡山県美術展覧会への応募作品数の増加を目指すもの									
登録文化財の登録件数	件	112	200	167	208				
(指標の説明)後世に幅広く継承する文化財建造物等の件数の増加を目指すもの									

3 代表的な取組(I)

県民協働による文化の振興を促進するため、岡山県文化連盟を通じて、市町村文化協会が他の文化協会やNPO、文化団体等と行う事業を支援した。

- ・ 真庭市文化協会「第5回落合まちかど展覧会」、瀬戸内市文化協会「特別企画展～大窯の記憶～」等地域のNPO等他団体を巻き込んだ文化による地域づくりイベントの開催を助成した。
- ・ 岡山県文化連盟が行う、文化人材バンク事業(希望する市町村の文化協会や小中学校等へ分野別の文化団体構成員が講師として出向き、次代を担うアーティストの養成に資する事業)への支援を行った。

文化振興課HP http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=23

<協働の成果>

岡山県文化連盟と協働して、文化団体間の交流促進、地域の文化力向上、文化団体の活性化を図った。

<「落合まちかど展覧会」作品展>

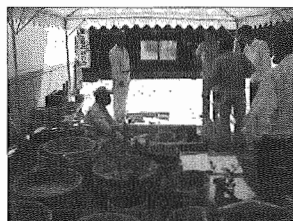
公民館や集会施設だけでなく、商業施設や寺院、個人宅など53会場で作品を展示した。



絵手紙・習字・編み物



絵画・書・パッチワーク・草木染・盆栽・生け花・絵手紙・手芸・写真



創作木桶・盆・漆器



陶芸・写真

3 代表的な取組(Ⅱ)

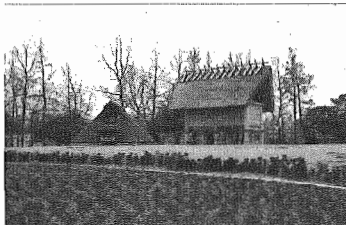
◆「吉備の国」文化遺産の保存・活用

○津島遺跡史跡整備事業

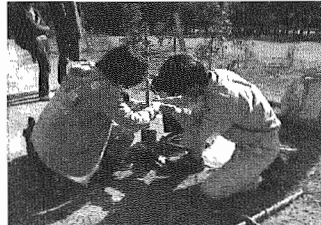
平成16年度から進めている史跡整備が、20年度末で終了し、「津島やよい広場」としてオープンした。

また、発掘調査の成果を公開し、遺跡の重要性などについて県民の理解・関心を高めるための普及・啓発活動を行った。

教育庁文化財課HP http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=151



〈津島やよい広場の「竪穴住居」と「高床倉庫」〉



〈やよい体験の「火おこし」〉

○おokayama子ども民俗芸能大会

国又は県指定等の重要無形民俗文化財について、子どもたちに発表の場を提供し、後継者の育成を図るための大会を開催した。



〈平川渡り拍子〉

〈協働の成果〉

各民俗芸能保存団体の指導者や地域のボランティア等の協力により、円滑な舞台進行ができた。

4 取り組むべき課題と対応方針

○県民の文化活動の一層の活性化

地域文化団体の交流促進や文化連盟の機能充実を図ったり、文化活動を顕彰することにより、多彩で個性豊かな県民の文化活動の活発化を図る。

○「吉備の国」文化遺産の保存・活用

文化財ボランティアガイド等を養成するとともに、その協力を得ながら史跡等の公開・活用に向けた取組を進め、文化財を理解し、親しむ機会を充実する必要がある。

また、子ども民俗芸能大会については、伝統文化継承の観点などから、引き続き発表の機会を確保するとともに、平成22年の国民文化祭へとつなげていく必要がある。

5 総合評価

<p>夢づくり協働指標の達成状況では、一部の指標について、進捗(達成)率の低調な指標も見受けられるが、文化団体やNPO等の方々と協働で地域文化の活性化を図っており、多くの県民に文化芸術に触れる機会を提供できた。</p>	プログラム達成レベル				
	H19	H20	H21	H22	H23
	3	3			
	<p>5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った</p>				

夢づくり政策評価シート

整理番号	108
担当部局	生活環境部

1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	国民文化祭プログラム
プログラムの概要	国民文化祭の開催を契機として、県民の文化力向上、全国に向けた文化発信、県内外の文化交流を進め、本県の一層の文化振興を図ります。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
県民文化祭参加者数	人/年	271,830	300,000	305,114	346,616				
(指標の説明)国民文化祭に向けて、県民文化祭への参加者を広げ、一層の気運の醸成を目指すもの									
国民文化祭参加者数	人	—	1,600,000	—	—				
(指標の説明)県民総参加の国民文化祭を目指すもの									

3 代表的な取組(Ⅰ)

○県民文化祭の開催

おかやま県民文化祭HP <http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/bunkasin/bunkasai/04/index.html>

- ・主催事業及び協賛事業合わせて185事業が県内各地で開催され、過去最大の参加者数となった。
※主催事業:総合フェスティバル(合唱と洋舞の祭典、書道展等)、分野別フェスティバル、県美術展覧会 ほか
- ・県民文化祭のテーマを、国民文化祭と共通の「晴れの国おかやま文化回廊」とした。

<協働の成果>

県レベル文化団体が開催する分野別フェスティバルは、16事業と過去最大となった。

総合フェスティバルin津山



<合唱と洋舞の祭典>



<書道展・華道展>



3 代表的な取組(Ⅱ)

○第25回国民文化祭の開催準備

あつ晴れ!おかやま国文祭HP <http://www.pref.okayama.jp/kokubunsai2010/>

◆事業別実施計画(素案)の策定

・県主催事業

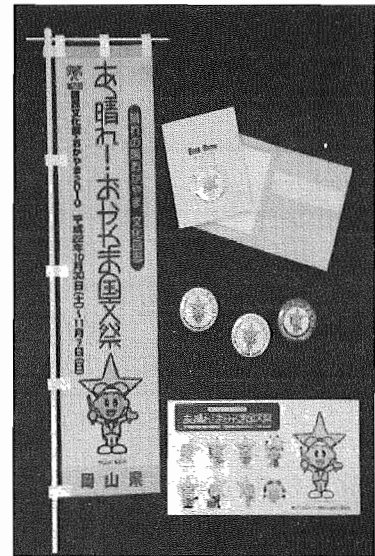
県実行委員会企画委員会に事業別の専門部会を置き、県民の方々の幅広い参加により、本県の文化の真髓を探り、その特性を紹介し、また、日頃の文化活動の成果を最大限に発揮できる内容となるように実施計画の検討を行った。

・市町村事業

実行委員会が順次設置され、地域の魅力を再発見しつつ、文化を媒体とした豊かな地域づくりにつながるよう、実施計画の検討が行われた。

◆広報資材の作成

県出先機関や市町村、公共施設等に配布し、国民文化祭に向けた気運の醸成を図るため、缶バッジ、卓上のぼり、シールなどを作成した。



<広報資材>

<協働の成果>

市町村や文化関係者の方々との連携を一層図りながら準備を進めている。

4 取り組むべき課題と対応方針

第25回国民文化祭の開催準備

国民文化祭の「岡山モデル」を目指し、国や市町村、文化関係者の方々とともに、開催準備を進めていく。

5 総合評価

・ 県民文化祭については、参加者数が増加し、一定の評価はできる。今後、さらに、新たな文化の創造、地域の文化活動の活性化を図り、国民文化祭後も見据えながら、レベルの高い、また、多くの県民により身近な文化の祭典としていく必要がある。

・ 国民文化祭については、財政構造改革に伴う事業見直しにより、準備事務が一時中断し、市町村や文化関係者の方々に多大なご迷惑をお掛けしたが、遅れを取り戻すべく鋭意準備を進めている。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
4	3			
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

夢づくり政策評価シート

整理番号	109
担当部局	生活環境部

1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	スポーツプログラム
プログラムの概要	世界へ羽ばたくトップアスリートの養成など、競技スポーツの振興に取り組むとともに、県内各地で県民が気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりを進め、ライフステージにあったスポーツ活動の推進に努めます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
国際大会への日本代表選手のうち本県関係者数	人/年	15	100 (5年間)	57	120				実績はH19からの累計値
(指標の説明)国際大会へ出場する日本代表選手のうち、本県関係者を5年間で100人輩出することを目指すもの									
総合型地域スポーツクラブ会員数	人	6,176	10,000	7,092	7,870				
(指標の説明)気軽にスポーツを楽しむことのできる総合型地域スポーツクラブの会員数の増加を目指すもの									
スポーツリーダーバンク登録人数	人	147	240	204	277				
(指標の説明)スポーツ振興を図るため、専門資格を持つ指導者等のバンクへの登録者数の増加を目指すもの									

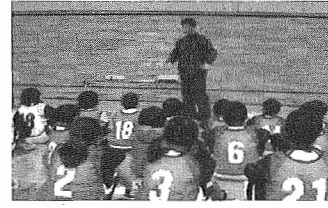
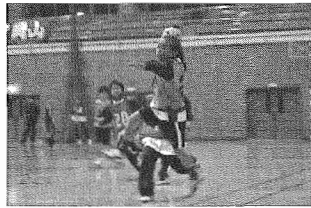
3 代表的な取組(Ⅰ)

○夢アスリート発掘事業

「2007、2008おかやま夢アスリート」43名に対し、月2回の割合で身体能力開発プログラムや知的能力開発プログラムなどを実施するとともに、保護者や指導者を対象に様々な情報提供を行った。また、能力開発プログラムで提供している「コーディネーショントレーニング」は、小学生の身体能力の発達に効果的なことから、小学校期指導者にスタッフとしてプログラムに参加し研修してもらうとともに、研修会を開催し普及に努めた。

スポーツ振興課HP http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=24

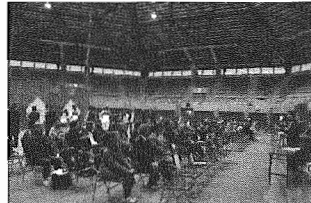
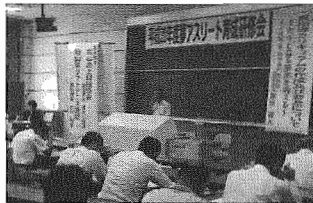
●能力開発プログラムを受けるおかやま夢アスリート



○夢アスリート育成事業

一貫指導システムの構築に向け、全体研修会を開催するほか、一貫指導カリキュラム策定済みの競技団体には、広く普及するための体制づくりの指導、20年度から策定に取り組んだ競技団体には競技別研修会を開催するなどの支援を行った。

●中央から講師を招いての全体研修会



<協働の成果>

夢アスリートの発掘事業では、学識経験者や県内競技団体等と連携を図り、夢アスリートの指導や次年度のプログラム内容などを検討した。また、夢アスリート育成事業では、日本オリンピック委員会や中央競技団体と連携を図り、競技団体の指導体制の確立に努めた。

3 代表的な取組(Ⅱ)

○総合型地域スポーツクラブの設立支援

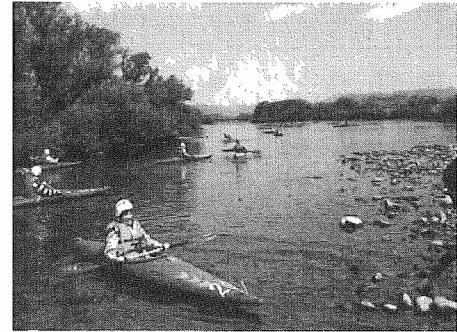
体力・年齢・技術・目的に応じて、いつでも、どこでも、だれでもスポーツに親しむことができる総合型地域スポーツクラブを各市町村に少なくとも1つは設立することを目標に取り組んでおり、平成20年度には新たに2市がクラブの設立をした。

◆新たにクラブを設置した市町村(2市)

・新見市、浅口市

◆新たに設置されたクラブ(5クラブ)

- ・きらり☆スポーツクラブ(岡山市)
- ・たけのこスポーツ広場(倉敷市)
- ・総合スポーツクラブ新見(新見市)
- ・粟井スポーツ振興会(美作市)
- ・浅口市総合型スポーツクラブ(浅口市)



〈協働の成果〉

設立準備団体である市町村、市町村体育協会、体育指導員等と密接な連携を図りながら、クラブ設立に取り組んだ。

(参考数値)

総合型地域 スポーツクラブ数 (累計)	H19	H20	増減
	31 (14)	36 (16)	5 (2)

総合型地域スポーツクラブHP <http://www.okayama-taikyo.or.jp/club/index.html>

※()は市町村数

4 取り組むべき課題と対応方針

○トップアスリートの養成

現在、能力開発プログラムに参加している夢アスリート43名について、小学校卒業まで各年代に応じた身体能力及び知的能力の開発プログラムを継続的に提供し、将来トップアスリートとして活躍するための基礎づくりを行うとともに、小学校6年生になる2007夢アスリートに対しては、競技選択するための情報提供や競技団体へのパスウェイなどの方法の検討を行う。

一貫指導カリキュラム作成競技団体に対して、県内指導者への普及・啓発や競技団体内の一貫指導体制の構築に向け支援を行う。

○総合型地域スポーツクラブの設立支援

当該クラブは、市町村が、地域の実情に応じて設立する必要があるため、市町村や地域住民の理解の促進を図ることを目的に、当該クラブに係るフォーラムやセミナーへの参加、研修会等の開催などに取り組むよう、働きかけを行うとともに、県体育協会を通じた支援を行う。

5 総合評価

夢づくり協働指標の達成状況では、全ての項目において当該年度の目標を上回っているが、今後も引き続き、生涯スポーツの振興と競技力の向上のため、各種施策を推進していくこととしている。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
4	4			

- 5 目標水準を大きく上回った
- 4 目標水準を上回った
- 3 概ね目標水準
- 2 目標水準を下回った
- 1 目標水準を大きく下回った

夢づくり政策評価シート

整理番号	110
担当部局	生活環境部

1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	パートナーシッププログラム
プログラムの概要	ボランティアやNPOの活動が活発に行われ、多様な主体がいきいきとした地域社会づくりに取り組めるよう、人材育成、情報提供、少子・高齢化時代に対応した各種活動の促進、活動支援拠点の充実などを進めます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
ボランティア数	人	94,930	108,000	115,191	117,439					
(指標の説明) ボランティア活動がどの程度多くの人に担われているかを表し、ボランティア活動実践者の増加を目指すもの										
NPO法人の認証数	団体	329	630	446	481					
(指標の説明) 地域づくりの主体としてパートナー社会の構築に大きな役割を持っているNPO法人の認証数の増加を目指すもの										

3 代表的な取組(Ⅰ)

○ 「ふるさとづくりももたろう塾」の開催

個性と魅力にあふれる活力ある地域づくり・人づくりを進めるために、協働の相手方である地域づくり団体や市民活動グループ・団体などで中核として活躍できるリーダーを育成した。

<協働の成果>

当塾は、これまで393人の卒業生を輩出し、その多くが県下各地において地域づくりのリーダーとして様々な実践活動に携わっている。



ふるさとづくりももたろう塾HP http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=5267

(参考数値)

ふるさとづくりももたろう塾卒業生(人)	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	合計
	37	35	37	35	30	26	30	25	34	38	33	33	393

○ 広報誌「夢づくりネット」の発行等

県内のコミュニティ活動の推進や活性化を支援することを目的として、コミュニティ活動情報等を掲載した広報誌「夢づくりネット」の発行(平成21年2月発行 7,500部)やホームページ作成の他、県民局毎に研修会等を開催した。

<協働の成果>

コミュニティ組織相互の情報交換や研修等の場を充実させることにより、連携強化を図ることができた。

「夢づくりネット」HP http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=30854



3 代表的な取組(Ⅱ)

○「ゆうあいセンター」の機能充実

ゆうあいセンターHP <http://www.youai-c.com/>

民間の指定管理者による自由な発想を取り入れた施設運営(利用者数:50,601人)の他、NPO法人の設立・運営相談や、県下2か所での出前セミナーの開催(参加者145人(笠岡市・真庭市で開催))等により、ボランティア・NPO活動への参加促進と活性化に努めた。



○「シニア・アクティブ・ライフ講座」の開催

定年後にボランティア活動等に関わりたいと考えているシニア世代を対象として、講義や地域資源を活用した活動現場の見学・体験やワークショップなどを組み込んだ3日間の連続講座を2回実施し、団塊世代の地域参加を促進した。(参加者:延べ81人)



○「NPO法人設立出前説明会」の開催

NPOの活動による地域活性化を図るため、NPO法人の活動が少ない地域において、地域人材の発掘とNPO法人設立の促進のための出前講座を開催した。(参加者41人(5市1町で開催))



<協働の成果>

ゆうあいセンター指定管理者との協働と併せて、学識経験者、市民活動実践者、センター利用者等で構成する運営委員会の意見等を運営に反映することで、利用者ニーズに適應したセンター機能の充実・強化が図られ、県全域を対象とした支援施設として拠点性が向上した。また、「出前セミナー」の開催等により、地域人材の育成や活動団体の連携向上も図ることができた。

4 取り組むべき課題と対応方針

○コミュニティ活動の推進

住民のニーズが多様化している中、コミュニティのあり方が重要になっていることから、広域的なコミュニティ組織相互の情報提供及び連携強化を支援するとともに、引き続き、各地の実情に沿った活力ある地域づくりができるリーダー育成を推進する。

○ボランティア・NPO活動支援拠点整備の推進

ボランティア・NPO活動は地域に根ざした活動が多く、活動の県内全域への波及には、身近な地域での活動支援拠点が必要なものであるため、市町村の取組を支援しながら全県ネットワークの構築に取り組む。

5 総合評価

地域づくりリーダーの育成や団塊の世代の市民活動参加促進、NPO法人設立促進などの事業を推進することで、夢づくり協働指標の達成に向けて着実な成果を上げることができた。

また、ゆうあいセンターのボランティア・NPO活動支援拠点としての機能の充実・強化と利用促進に努め、幅広い人的交流と連携の輪が拡大した。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
4	4			
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

夢づくり政策評価シート

整理番号	201
担当部局	生活環境部

1 施策の概要

基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	安全・安心まちづくりプログラム
プログラムの概要	犯罪のない安全で安心な社会の実現を目指して、小学校を中心とする自主防犯活動の推進をはじめ、市町村、県民、自治会等、ボランティア・NPO及び事業者との連携・協働による安全・安心なまちづくりを進めます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
自主パトロール活動等実践組織数	団体	438	700	589	643				
(指標の説明)活動団体がない160小学校区の解消に加え、100団体の増加を目指すもの									
地域安全マップ作成小学校の割合	%	57.4	100	48.0	60.8				
(指標の説明)子どもたちが犯罪被害に遭わないよう、全小学校で地域安全マップの作成を目指すもの									
防犯責任者設置事業所数	事業所	0	2,000	620	1,262				
(指標の説明)金融機関、コンビニエンスストアを中心に各事業所ごとの防犯責任者設置を目指すもの									

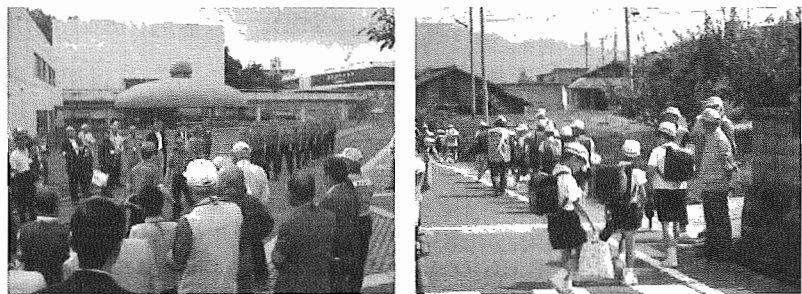
3 代表的な取組(Ⅰ)

- 地域住民に最も身近で基礎的な地域単位である小学校区を基本とする自治会、町内会、PTA、老人会、婦人会等の諸団体が一体となった取組が県内全域(全小学校区)で展開されるよう、市町村と連携し、自主防犯活動団体の組織の立ち上げや活動の充実のための経費を助成した。
○ 補助率: 市町村が団体に補助する額の1/2以内(県補助金額: 上限10万円)

- 自主防犯活動に関する知識や情報を有し、地域内の諸団体の活動を調整するリーダーなどの人材を養成する講座を開催し、子どもの見守り活動や自主防犯活動の一層の活発化・定着化を図った。

〔講座の概要〕

- 犯罪の現況と対策
- 有識者等による講演
- 活動実践者による事例紹介
- パトロールの実地研修
- 参加者間の意見交換等



＜協働の成果＞

県、市町村、ボランティア団体が連携しながら、それぞれの役割分担に基づき、安全・安心まちづくりの実現に向けた取組を展開している。

安全・安心まちづくり推進室HP http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=22

リーダー・コーディネーター養成講座HP http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=15996

(参考数値)

	H19	H20	増減
補助を受けた団体数(累計)	154	220	66

(参考数値)

	H19	H20	増減
講座への参加人数(累計)	229	451	222

3 代表的な取組(Ⅱ)

■ 学校への登下校時に子どもを狙った犯罪や不審者遭遇事案が続発するなど、子どもの安全確保が喫緊の課題となっている。

このため、子どもの危険予測能力、危険回避能力を向上させる効果がある「地域安全マップづくり」の指導者を養成する講座を開催し、小学校等における「地域安全マップづくり」の普及促進を図った。

〔講座の概要〕

- 講義
- フィールドワーク(会場周辺をグループで実地に検証)
- 地域安全マップ作成
- 発表・講評

〔受講者〕

小学校教員、市町村教育委員会担当者、警察署担当者、大学生ボランティア、地域ボランティアなど

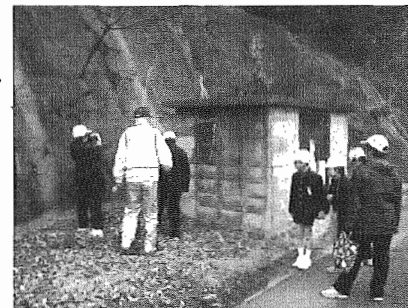


<協働の成果>

講座には小学校教員などの教育関係者だけでなく、地域で見守り活動を実施しているボランティアの方々も参加しており、「地域安全マップづくり」は、小学校における取組にとどまらず、地域全体の取組として進めるべきものであるという認識が広がりつつある。

地域安全マップ指導者養成講座HP

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=22291



(参考数値)

	H19	H20	増減
講座への参加人数(累計)	631	917	286

4 取り組むべき課題と対応方針

○ 自主防犯活動団体への支援

自主防犯活動団体が息の長い活動を安定的に実施していくための支援として、募金型自動販売機の設置に係る橋渡しなど事業者との協働の取組を進めているが、今後とも、県、市町村、自主防犯活動団体、事業者の役割分担を踏まえ、効果的な支援を検討する。

○ 地域安全マップづくりの促進

地域安全マップに対する教職員の理解を深めるため、従来の指導者養成講座に加え、主に小学校教員を対象とした普及講座を開催するなどして、より一層の周知に努め、各小学校における子どもの危険予測・回避能力の育成を図る取組を促進する。

5 総合評価

夢づくり協働指標の状況としては、概ね順調に推移しており、目標の達成が十分見込まれる水準である。今後、取り組むべき課題に対応しつつ、犯罪のない安全で安心な岡山県の実現に向け、着実に施策を実施していく。

プログラム達成レベル

H19	H20	H21	H22	H23
4	4			
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

夢づくり政策評価シート

整理番号	202
担当部局	警察本部

1 施策の概要

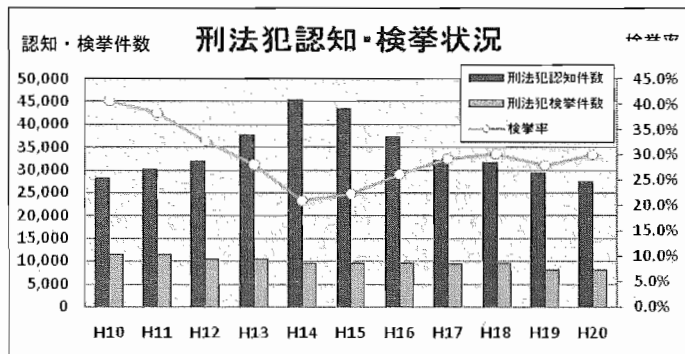
基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	暮らしと交通の安全プログラム
プログラムの概要	県民生活に危険を及ぼす犯罪・事故等を未然に防止するため、身近な犯罪や凶悪化・組織化・国際化する犯罪への対策、少年非行防止対策を強化するとともに、交通安全対策を推進します。また、犯罪被害者等への支援や日々の生活における消費者被害の撲滅を進めます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
刑法犯認知件数	件/年	32,102 (H17)	27,000	29,257	27,357				H18 31,632
(指標の説明) 犯罪対策等の推進により、県内の刑法犯罪の減少を目指すもの									
交通事故死者数	人/年	148 (H17)	115	115	114				H18 144
(指標の説明) 交通安全対策等の推進により、交通事故で亡くなる方の減少を目指すもの									
交通事故負傷者数	人/年	26,968 (H17)	21,000	24,579	22,412				H18 25,660
(指標の説明) 交通安全対策等の推進により、交通事故で負傷される方の減少を目指すもの									

3 代表的な取組(I)

○ 街頭犯罪等抑止総合対策の推進
 犯罪発生状況等の分析結果と各種の警察活動の効果を検証し、犯罪が発生する時間帯や場所、発生が多い犯罪種別等に対応して警察力を集中運用し、犯罪の抑止・検挙を図った。また、インターネットや電子メール等を活用して身近な犯罪発生情報等をタイムリーに提供し、地域住民の防犯意識の醸成に努め、県民と協働した犯罪抑止対策を推進した。



- 街頭犯罪等抑止総合対策 <http://www.pref.okayama.jp/kenkei/seian/seiki/yokusi/yokusi/hasei/index01.html>
- ぐらしの安全Web Map <http://www.machi-info.jp/machikado/op-webmap/toppage.html>

〈協働の成果〉

ボランティア団体と協働した防犯パトロールの実施を始め、モデル地区に対する防犯パトロール資機材の提供、教育機関に対する防犯講話・防犯訓練等、自主防犯活動に対する積極的な支援を行い、地域住民等との協働の取組みを推進した。

(参考数値)

不審者情報等をメール配信する「ももくん安心メール」の登録者数	H19	H20	増減
	8,542	12,137	+3,595



- 地域防犯ボランティア <http://www.pref.okayama.jp/kenkei/seian/seiki/borantia/borantia.htm>
- ももくん安心メール http://www.pref.okayama.jp/kenkei/seian/seiki/fushinsha_pc/momo_touroku.html

3 代表的な取組(Ⅱ)

○ 振り込み詐欺被害防止対策等の推進

オレオレ詐欺、架空請求詐欺、融資保証金詐欺等の「振り込み詐欺」について、犯罪の傾向を踏まえた広報啓発活動や被害を未然に防止するための取組みを関係団体と協働して推進するとともに、振り込み詐欺及び振り込み詐欺を助長する通帳詐欺等の犯罪の取締りを強化した。



〈協働の成果〉

金融機関等の関係機関・団体との協働を強化し、各種広報媒体を活用した積極的な情報提供等、振り込み詐欺被害を防止するための取組みを推進した。

(参考数値)

	H19	H20	増減
振り込み詐欺被害件数	413	312	△101

	H19	H20	増減
振り込み詐欺被害総額	約6億9千万円	約4億5千万円	△約2億4千万円

● 振り込み詐欺様態・対策 <http://www.pref.okayama.jp/kenkei/seian/seiki/furikomesagi/furikome.html>

● 振り込み詐欺疑似体験コーナー <http://www.pref.okayama.jp/kenkei/seian/seiki/furikome/furikome.html>

○ 高齢者交通安全対策の推進

高齢者世帯への訪問指導や交通安全体験車を利用した体験型の交通安全指導を実施するとともに、運転免許証の自主返納対策等の高齢運転者対策を推進した。



〈協働の成果〉

平成20年8月に「岡山県民生委員児童委員セーフティネットワーク」を構築するなど、ボランティアとの協働により高齢者世帯に対する訪問指導等を推進した。

● 高齢者交通安全対策 <http://www.pref.okayama.jp/kenkei/koutu/koki/news/koureinews/koureinews.html>

4 取り組むべき課題と対応方針

○ 子どもと女性を性犯罪等の被害から守るための対策の推進

子どもや女性を対象とする性犯罪等の発生が後をたたないことから、その未然防止と徹底検挙に対する要望は極めて強い。そこで、それらの犯罪に対して先制予防的な警察活動を推進し、被害の未然防止を図る必要がある。

○ 迅速的確な初動警察活動の推進

無差別殺傷事件の発生、突発的集中豪雨被害に伴う緊急対応事案の発生等、警察事象の多様化・スピード化に的確に対応する観点から、迅速的確な初動警察活動の推進が全国的な課題となっている。このため、PIT(注)・通信指令を始めとするシステムや体制の整備・充実など警察活動基盤の強化を図る必要がある。

(注) PIT:位置情報通知機能等、多くの機能を搭載したモバイル端末

5 総合評価

刑法犯認知件数、交通事故死者数、交通事故負傷者数といった夢づくり協働指標については、各種の取組みにより、目標の達成に向け順調に推移している。
街頭犯罪等抑止総合対策や振り込み詐欺の被害防止等の施策も効果的に実施されており、それぞれの施策ごとに県民との協働の取組みについて推進が図られ、その成果が認められるところである。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
4	4			
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

夢づくり政策評価シート

整理番号	203
担当部局	総務部

1 施策の概要

基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	災害対策・危機管理プログラム
プログラムの概要	風水害、地震等の自然災害や大規模な事故、さらにはテロ等の危機への十分な備えを講ずるため、災害に強い地域づくりとともに、生活物資等の供給体制、的確な情報提供等の危機管理体制の整備を進めます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

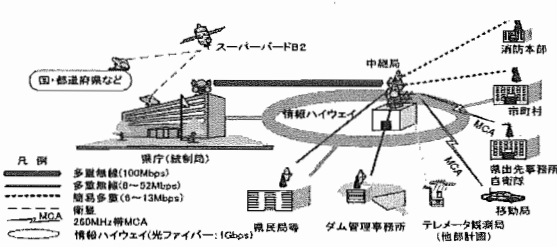
指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
ITを活用した緊急防災情報提供システムの加入者数	人	0	40,000	4,557	6,115					
(指標の説明)防災情報を県民の携帯電話などにメール配信し、災害への適切な対応を目指すもの										
堤防等の整備により高潮被害が解消された戸数	戸	9,559	18,500	13,315	17,851					
(指標の説明)高潮対策事業の進展により高潮被害が解消される戸数の増加を示すもの										
耐震化した重要橋梁の割合	%	28	100	67	75					
(指標の説明)緊急輸送道路等の橋梁の耐震化を目指すもの										
県立学校の耐震化率	%	48.2	65.0	55.4	58.4					
(指標の説明)生徒等の安全・安心の確保、災害発生時の地域住民の避難場所として、安全性の向上を目指すもの										
住宅の耐震化率	%	67	75	69	70					
(指標の説明)地震による人的被害及び経済的被害の軽減を目指すもの										
河川改修により洪水被害が解消された戸数	戸	46,000	58,800	48,800	50,000					
(指標の説明)河川改修により洪水被害の解消される戸数の増加を目指すもの										
区域指定等により土砂災害の避難体制が整った箇所数	箇所	—	5,500	1,781	2,866					
(指標の説明)土砂災害発生時の恐れのある箇所を明らかにし、市町村による避難体制の整備を促進するもの										

3 代表的な取組(I)

○ 防災・危機管理の体制及び基盤の整備

災害に迅速かつ的確な対応ができるよう、防災・危機管理体制を整備した。

- ・ 24時間対応可能な防災・危機管理体制の整備
- ・ 災害に強い防災情報ネットワークの構築
- ・ 「市町村災害時要援護者避難支援マニュアル作成指針」の作成



<協働の成果>

- ・ 災害・救急医療体制の整備
関係機関連携のもと、高速道路IC等におけるドクターヘリの運用を開始した。
- ・ 国際救援活動の推進
ミャンマーサイクロン、中国・四川大地震の際、公設国際貢献大学校が設置したもたらう国際救援隊と連携し、被災地にシュラフや貯水用タンク等を提供した。

国際救援物資備蓄事業参加数(人・団体)	H19	H20	増減
	1,113	1,244	131

3 代表的な取組(Ⅱ)

○ 東南海・南海地震などの対策強化

大規模地震発生時に救急活動、支援物資の輸送などが迅速かつ円滑に実施できるよう、一次緊急輸送道路上などの重要橋梁の耐震化等、地震災害の被害を軽減するためのハード整備を進めた。

- ・ 一次緊急輸送道路上などの重要橋梁の耐震化
- ・ 木造住宅等の耐震診断の実施、改修工事の補助

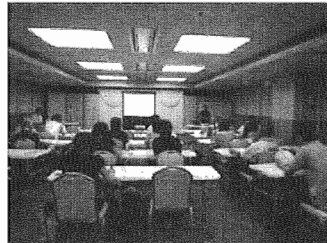
耐震化した重要橋梁(累計数)	H19	H20	増減
	72	80	8

改修工事補助件数	H19	H20	増減
	3件	19件	16件

○ 災害救援専門ボランティア(通訳・翻訳)の養成

災害時における外国人被災者のニーズに的確に対応する体制づくりを行うため、災害時語学ボランティアの役割の理解とスキルの向上を図るとともに、災害救援専門ボランティアの登録者の増員を目的に研修会を開催した。

対応言語数 登録者数	H19	H20	増減
	9言語 45人	11言語 64人	2言語 19人



〈災害救援専門ボランティア研修会の様子〉

H21.3.31現在	
言語	登録者人数
英語	40
中国語	7
スペイン語	6
ポルトガル語	2
韓国・朝鮮語	2
ドイツ語	2
インドネシア語	1
フランス語	1
カンボジア語	1
オランダ語	1
ベンガル語	1
計	64

4 取り組むべき課題と対応方針

○ わかりやすい防災情報の提供

ハザードマップの作成促進や防災情報のメール配信サービスの普及など、県民への緊急防災情報の提供に取り組む。

メール配信サービス → <http://www.bousai.pref.okayama.jp/bousai/>

○ 防災対策の推進

風水害や地震をはじめとする災害の被害を軽減するためのハード整備を計画的に進めていくとともに、建築物の所有者等への防災対策意識の啓発に取り組む。

5 総合評価

- ・ 風水害や地震をはじめとする災害の被害を軽減するため、重点箇所を中心に計画的にハード整備を進め、目標水準を満たす整備を行うことができた。
- ・ 24時間体制の整備や災害に強い防災情報ネットワークの構築など防災・危機管理体制の充実・強化を行った。
メール配信サービスの登録者数が低い伸びにとどまったため、様々な方法によりさらに幅広く加入促進に取り組む。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
3	3			
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

夢づくり政策評価シート

整理番号	204
担当部局	総務部

1 施策の概要

基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	自主防災プログラム
プログラムの概要	自分たちのまちは自分たちで守るという防災まちづくりを進めるため、様々な災害の発生に備えて、県民、ボランティア、各種団体、企業等が活動できる自主防災組織や災害ボランティアの人材育成、活動支援等を行います。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
事業所との災害時協力協定締結数	団体	119	250	241	275				
(指標の説明) 県・市町村と事業所との災害時協力協定締結団体の増加を目指すもの									
自主防災組織率	%	44	70	47	48				
(指標の説明) 地域防災の担い手である自主防災組織の増加を目指すもの									
防災士の数	人	35	350	331	354				
(指標の説明) 地域防災力向上のための活動が期待される防災士の認定者数の増加を目指すもの									

3 代表的な取組(I)

○ 自主防災組織の設置促進・育成

市町村が補助する町内会や自主防災組織への防災資機材の整備等を支援し、地域防災力の中核となる自主防災組織の設置促進及び活動活性化を図った。

- 自主防災組織の設置促進・活性化
新規設置自主防災組織数・・・59団体

自主防災組織率(%)	H19	H20	増減
	47	48	1
防災士数(人)	H19	H20	増減
	331	354	23

<協働の成果>

自主防災組織、NPO団体、防災士などの地域防災リーダーを対象にした研修会等を実施し、地域における防災リーダーの育成を図った。

リーダー研修会参加者: 約250人



3 代表的な取組(Ⅱ)

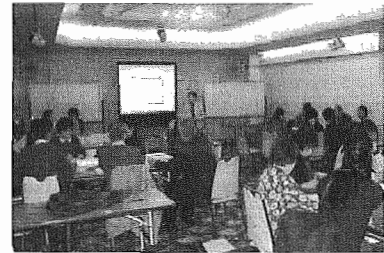
○ 災害ボランティアの育成

災害救援専門ボランティアの登録を推進するとともに、ボランティア意識の向上及び専門的な技術のレベルアップのための研修を実施した。

- ・「岡山県災害救援専門ボランティア研修」の開催（研修回数：6回、参加者168人）

<協働の成果>

災害ボランティアコーディネーターをはじめ、介護、手話通訳、外国語通訳・翻訳など専門的な知識や技術を持つボランティアを、災害救援専門ボランティアとして登録した。



災害救援専門ボランティア登録数 (人)	H18	H19	H20	増減
	1,155	1,201	1,306	105

岡山県災害救援専門ボランティア登録制度

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=2823

4 取り組むべき課題と対応方針

○ 自主防災組織の設置促進・育成

地域の防災活動に大きな役割を果たす自主防災組織の設置促進や活性化を図るため、その防災資機材の整備や防災士の資格取得等を支援する市町村に対して助成を行う。特に、自主防災組織率の低い市町村に対し、働きかけを強化し自主防災組織の設置促進を図る。

○ 災害ボランティアの育成

災害発生時の対応を強化するため、災害救援専門ボランティアの登録数をさらに増やすとともに、資質向上を図る必要がある。

5 総合評価

	プログラム達成レベル				
	H19	H20	H21	H22	H23
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種研修会や市町村等への支援を行い、地域防災力の強化に取り組んだ結果、防災士や災害時協力協定事業所が増加した。 ・ 自主防災組織数は、59団体増えたものの、組織率は48%と低い伸びにとどまっており、今後も自主防災組織率の低い市町村等に対し、重点的に設置促進を働きかけていく必要がある。 	3	3			
	5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

夢づくり政策評価シート

整理番号	205
担当部局	保健福祉部

1 施策の概要

基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	健康・医療プログラム
プログラムの概要	県民が健康でいきいきとした生活を送れるよう、県民自らが行う健康づくりの支援やひきこもり、自殺予防などの心の健康づくりに取り組みます。また、質の高い医療サービスが受けられるよう、患者への情報提供、医療機関の連携の推進等に取り組みます。さらに、県民の食に対する信頼を確保するため、岡山県食の安全・安心の確保及び食育の推進に関する条例に基づき、食の安全・安心及び食育の推進に取り組みます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
65歳時の健康寿命 (平均自立期間) 〈男性〉	年	15.8	16.4	—	—				
〈女性〉	年	18.2	19.0						
(指標の説明)県民の健康づくりとそれを支える医療体制等がどの程度進んでいるかを表すもの									
患者からの医療安全 相談等に応じる体制 を備えた病院の割合	%	74	100	78	84				
(指標の説明)県内の病院が、自主的かつ積極的に医療の安全と安心の構築に取り組む一環として、設置を進めるもの									
栄養成分表示の店登 録施設数	施設	543	700	695	913				
(指標の説明)県民の健康づくりの意識(特に栄養・食生活分野)がどの程度進んでいるかを表すもの									
禁煙・完全分煙実施 施設認定数	施設	730	900	1,119	1,497				
(指標の説明)県民の健康づくりの意識(特にたばこ分野)がどの程度進んでいるかを表すもの									

3 代表的な取組(Ⅰ)

健康づくりの推進

運動習慣の普及定着を図るための啓発や禁煙・完全分煙実施施設等の認定を行い、県民の健康づくりのための環境整備を進めるとともに、生活習慣病などの疾病や介護を要する状態になることを予防するために、市町村を中心に、医療機関、ボランティアの協力のもと、健康増進事業に取り組んだ。

〈協働の成果〉

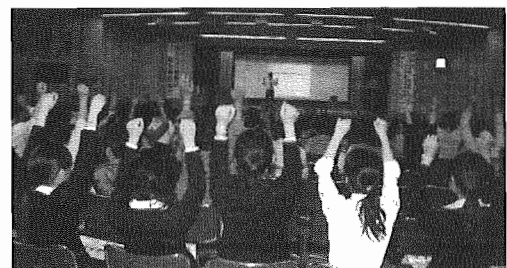
- 食に関する健康づくりを推進するため、「栄養成分表示の店」の登録施設を増やすとともに、健康に配慮したメニューの選択ができるよう、料理を提供する飲食店や弁当製造・販売するスーパーマーケットやコンビニエンスストア等と協働で健康に配慮したヘルシーメニューの開発を行った。

ヘルシーメニューの協力施設数: 214

- 生活習慣病の予防や改善を行うために、市町村、事業所、関係団体等と連携して、メタボリックシンドロームの概念・予防法についての研修会や講演会を開催し、運動習慣の定着や健康的な生活習慣の定着を図るよう普及啓発を行った。

メタボリックシンドローム改善支援事業:

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=31977



【メタボリックシンドローム予防研修会】



3 代表的な取組(Ⅱ)

医療提供体制の整備

いつでもどこに住んでいても安心して医療を受けられるよう、良質かつ適切な医療を提供する体制の整備に取り組んだ。

- ・ 岡山大学医学部に5名の地域枠を設け、地域医療に貢献する医師の養成確保を図ることとした。
- ・ 救急医療現場から早期に治療を開始するため、新たに高速道路IC等におけるドクターヘリ運用を開始した。
緊急離着陸場: 高梁SA、岡山ICなど17箇所



【ドクターヘリ】

〈協働の成果〉

医療関係団体や医療機関等の連携により、救急告示のない新見地域に緊急臨時的な医師派遣を行い、地域の救急体制の確保を図った。また、小児科医師や看護師等の協力を得て、小児救急医療電話相談事業の円滑な実施が図られている。

(参考数値)

	内訳	H19	H20	増減
小児救急医療 電話相談件数	休日	1,059	2,005	946
	平日	1,112	2,477	1,365
	計	2,171	4,482	2,311

小児救急医療電話相談: http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=7000

4 取り組むべき課題と対応方針

○感染症医療提供体制の整備

新型インフルエンザ発生時の医療提供体制については、発熱外来の整備、パンデミック時の入院病床の確保等が必要であり、引き続き医療関係機関と連携して体制整備を進める。

○食の安全・安心確保の充実

県民の食に対する信頼の確保が課題となっており、輸入食品の監視体制の強化を図るとともに、食の安全に対する正しい知識を分かりやすく伝えるため、その推進役となるリスクコミュニケーターの養成と育成に取り組む。

5 総合評価

栄養成分表示の店登録施設や禁煙・完全分煙実施施設が大幅に増加するなど、健康づくりの環境整備が進むとともに、医療機関、医療関係団体等との連携により、医療提供体制の整備が着実に推進できた。また、県民、食品関係事業者、関係団体や地域等との連携により、食の安全・安心の確保と食育の推進が図られた。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
4	4			
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

夢づくり政策評価シート

整理番号	206
担当部局	保健福祉課

1 施策の概要

基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	福祉プログラム
プログラムの概要	障害のある人が地域で共生する社会の形成を目指し、ボランティアの育成や自立した地域生活を支える基盤の充実等を図ります。また、高齢者が健康でいきいきと活躍でき、家庭や地域で、安心して安全に自立した生活ができる環境の整備に取り組みます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
グループホーム・ケアホーム数(障害者)	箇所	137	290	172	197					
(指標の説明)障害のある人が、施設入院・入所から地域へ移行していくための受け皿の充足度を表すもの										
小規模多機能型居宅介護事業所数	箇所	10	140	42	61					
(指標の説明)認知症などの介護を要する高齢者が可能な限り自宅や地域で暮らすことができるよう支援するサービスがどの程度整備されているかを表すもの										

3 代表的な取組(1)

障害のある人の地域生活を支える基盤の充実

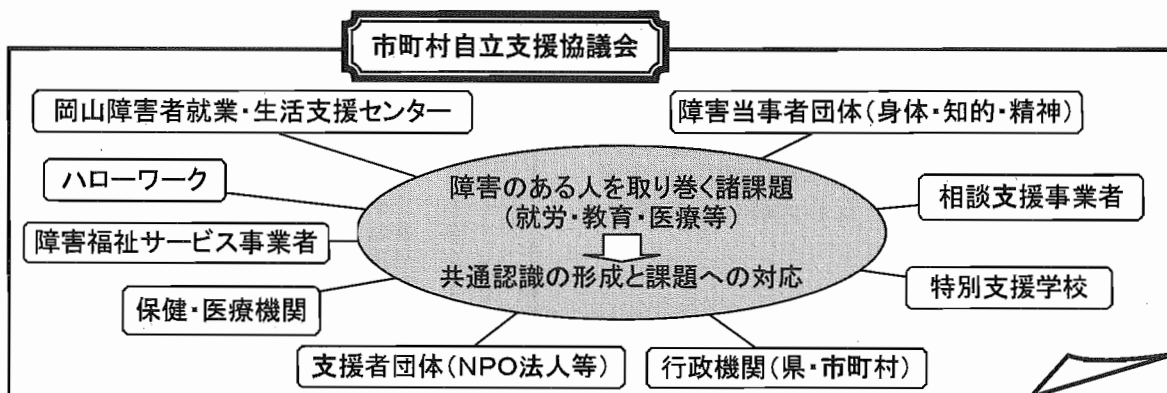
地域での居住の場であるグループホーム・ケアホームの整備を促進するとともに、市町村、サービス事業所等で障害のある人の地域生活を支援する相談支援従事者に対する研修を実施し、その能力向上に取り組んだ。また、障害のある人の社会参加促進のため、手話奉仕員、要約筆記奉仕員等の養成講座を実施し、ボランティアの着実な育成とその活用を図ることができた。

(参考数値)

ボランティア登録者数(人)	H19	H20	増減
手話通訳者	94	98	4
手話奉仕員	409	440	31
要約筆記奉仕員	506	525	19
点訳奉仕員	62	76	14
朗読奉仕員	145	170	25
盲ろう者通訳ガイドヘルパー	83	86	3

〈協働の成果〉

個別の相談支援をバックアップする市町村自立支援協議会において、支援者団体や障害福祉サービス事業者等と連携して、地域生活を支える体制の整備・充実が図られた。



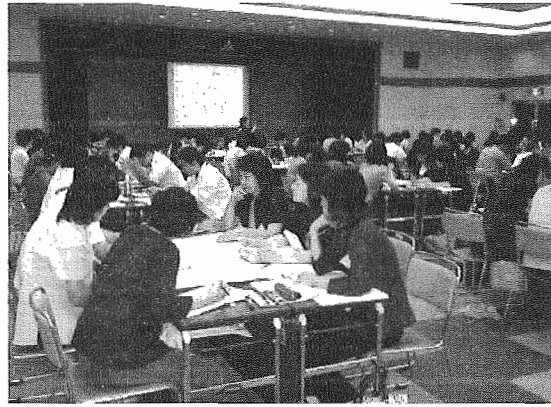
3 代表的な取組(Ⅱ)

認知症高齢者支援の充実

・認知症の人々が安心して暮らせるまちづくりを目指し、認知症を正しく理解し認知症の人や家族を応援する「認知症サポーター」を養成するため、養成講座で講師となるキャラバン・メイトを養成するための研修を開催した。

認知症サポーターの養成目標：H21年度までに県内で2万人(全国で100万人)

・また、認知症医療に関する技術的援助を行う認知症専門技術センターや、高齢者虐待防止や権利擁護に関する法律相談窓口を設置し、住民からの相談等に対応する市町村を支援した。



〈協働の成果〉

・認知症サポーターについては、市町村がキャラバン・メイトと連携して養成講座を随時開催し、20年度末までに1万5千人以上が養成されている。

(参考数値)

キャラバン・メイト養成人数(人)	H19	H20	増減
	94	280	186

オレンジリング(プレスレット)を腕に付けてもらい、認知症の人や家族へ認知症サポーターであるという目印として、また、サポーター間のネットワークづくりに役立てています。

認知症キャラバン・メイトのページ：http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=14886

4 取り組むべき課題と対応方針

○障害のある人の就業環境の整備充実

障害のある人の地域生活基盤をより充実させるため、授産施設等の工賃水準の引き上げを目的とする岡山県工賃倍増5か年計画を推進するとともに、就労支援員の養成や障害者就業・支援センターの運営により、障害のある人の就労移行の促進に努める。

○地域包括支援システムと総合的介護予防システムの構築

高齢者の地域での生活を支える地域包括支援システムや総合的介護予防システムの構築を図るためには、その中核機関となる市町村地域包括支援センターの機能をさらに強化する必要がある。アドバイザーの派遣や技術的助言、情報提供等を行い、高齢者が地域で安心して生活を送るための取組を支援する。

5 総合評価

関係団体や市町村等との連携により、障害のある人の地域の居住の場であるグループホーム等の着実な整備や高齢者の地域生活を支援する地域包括支援センターの機能強化が図られるなど、障害のある人や高齢者の自立した地域生活を支える環境整備について推進が図れており、一定の水準は確保できていると考える。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
3	3			
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

夢づくり政策評価シート

整理番号	207
担当部局	企画振興部

1 施策の概要

基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	ユニバーサルデザイン(UD)プログラム
プログラムの概要	年齢、性別、能力、国籍等にかかわらず、誰もが暮らしやすい社会の実現を目指して、ユニバーサルデザインの考え方を県全域へ浸透させるとともに、すべての人が、安全・安心で生活しやすく、活動しやすい快適なまちづくりを進めます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
UDサポーターの数	人	8,700	16,000	15,300	20,900					
(指標の説明)UDの考え方に賛同し、UD推進に主体的に参加する人の増加を目指すもの										
UDに配慮した駅の数	駅	13	18	13	14					
(指標の説明)利用者が5,000人/日以上全ての駅をUD化することを目指すもの										
バリアフリー化された公共的施設の数	施設	993	2,000	1,364	1,458					
(指標の説明)福祉のまちづくり条例に基づく届出・協議により、バリアフリー化された公共的施設の増加を目指すもの										

3 代表的な取組(Ⅰ)

「UDマインドの定着化」

UD推進のための推進本部や有識者等によるアドバイザー会議など、全庁的な推進体制のもとで、セミナー、出前講座の開催、UDほっとステーションサテライト事業や体験事業等、各種の普及啓発事業を幅広く展開して県内全域へのUDの考え方の浸透に努めた。

<協働の成果>

「UDほっとステーションおかやま」をNPOと協働して運営し、多くの県民の方が気軽にUDに触れることができる機会を継続して提供したほか、その他の普及啓発事業もNPOと協働して展開し、UDの考え方に賛同し、UD推進に主体的に参加する県民である「UDサポーター」を多数養成することができた。



UDほっとステーションおかやま
(岡山市石関町)



展示コーナー

(参考数値)

「UDほっとステーションおかやま」の利用者数(人)	H19	H20	増減
	2,700	4,200	1,500

UDほっとステーションおかやま

<http://www.udhot.jp/>

3 代表的な取組(Ⅱ)

「UDマインドあふれるまちづくりの推進」

誰もが利用しやすいUDに配慮した建築物を対象にコンテストを行い、優れた事例を表彰・発表することにより、UD建築の普及・啓発を図り、UDに配慮したまちづくりを推進した。

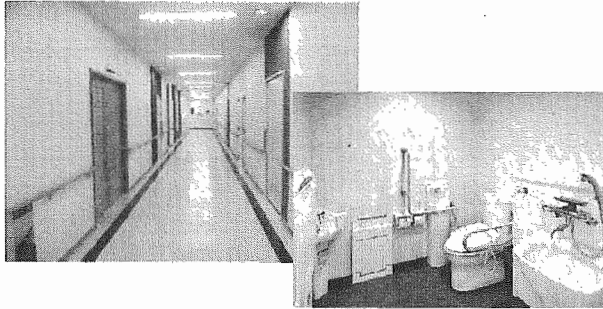
また、UDの考え方を取り入れた県営住宅建替事業を計画的に進め、入居者や訪れる人々にとって、安全・安心で生活しやすく、活動しやすい快適な居住施設づくりに取り組んだ。

<協働の成果>

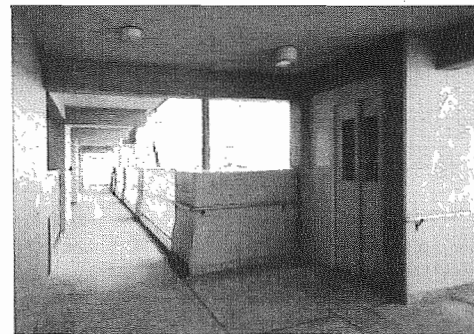
建築士会やNPO等と連携し、UDに配慮した建築の普及・啓発を行い、UDの浸透を推進した。

わがまちの みんなのたてもの 2008 おかやまUDコンテスト 受賞作品

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=24267



わがまちのみんなのたてもの2008 おかやまUDコンテスト 最優秀作品



UDに配慮した県営住宅(原尾島団地)

4 取り組むべき課題と対応方針

○ UDマインドの定着化

「UDほっとステーションおかやま」の効率的な活用に努めるとともに、県全域において広く県民にUDの考え方が浸透・定着するよう引き続き、出前講座やセミナー等を開催するほか、今後、新たに、NPOと協働して県内各地を訪問してUDの普及啓発を行うUD啓発ワゴンサービス事業にも取り組む。

○ 誰もが暮らしやすいUD社会の実現

誰にとっても便利で使いやすいまちづくり、もの(製品)づくりの推進や情報・サービスの提供に取組み、生活のあらゆる面で利便性が高い「すべての人にとって暮らしやすいおかやまづくり」を目指す。

5 総合評価

各重点施策や事業の取組により、ユニバーサルデザインの浸透・定着が着実に図られており、一定の水準は確保できていると考える。

プログラム達成レベル

H19	H20	H21	H22	H23
3	3			

- 5 目標水準を大きく上回った
- 4 目標水準を上回った
- 3 概ね目標水準
- 2 目標水準を下回った
- 1 目標水準を大きく下回った

夢づくり政策評価シート

整理番号	208
担当部局	生活環境部

1 施策の概要

基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	水と緑プログラム
プログラムの概要	ふるさと岡山の美しい水と緑をかけがえのない財産として次代に引き継いでいくため、清流保全活動、児島湖の再生、瀬戸内海の環境保全等に取り組むとともに、多様で健全な森林整備、里山等の保全と活用を進めます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
ホテルの生息地箇所数	箇所	208	240	236	249					
(指標の説明)川の清流保全を推進することにより、ホテルの生息地箇所の増加を目指すもの										
森づくり活動への参加者数	人/年	4,837	7,000	7,444	7,806					
(指標の説明)森林の働きや大切さを啓発するため、指導的人材の養成や身近な里山林での活動支援などにより森づくり活動への参加者数の増加を目指すもの										
環境保全を活動目的とするNPO法人数	団体	103	190	132	144					
(指標の説明)活動目的に環境保全を挙げているNPO法人の認証数の増加を目指すもの										
児島湖の水質(COD)	mg/l	8.3	7.3	7.9	8.1					
(指標の説明)児島湖の再生を推進することにより、代表的な水質である化学的酸素要求量の改善を目指すもの										
下水道や浄化槽等により生活排水処理ができる人口割合	%	63.3	75	68.7	71.1					
(指標の説明)下水道、集落排水、合併処理浄化槽により生活排水処理できる人口割合の増加を目指すもの										
海のゆりかご(藻場)の面積	ha	930	1,000	937.5	959.1					
(指標の説明)水産資源の回復や海域環境の改善のため、魚介類の成育や水質の浄化にとって重要な海のゆりかご(藻場)の回復を目指すもの										

3 代表的な取組(I)

○児島湖再生の推進

9月を「児島湖流域環境保全推進月間」と定め、県、国、流域市町、民間団体等が一体となり、流域住民の理解と協力のもとに県民運動として各種行事を実施している。

- ① 児島湖流域清掃大作戦: 児島湖・流入河川9箇所において児島湖流域環境保全協議会会員、住民、民間団体、学生等が一斉清掃を行い、計27.7tのごみを回収した。
- ② 児島湖流域環境保全ポスターコンクール: 流域の小学3年生～中学生からポスターを募集し、1,519点の応募があった。
- ③ 児島湖ふれあい環境フェア: 児島湖流域下水道浄化センターにおいて、ポスターコンクール入賞者表彰式・環境保全啓発キャンペーンを、イオン倉敷において、ポスター・パネル展を行った。

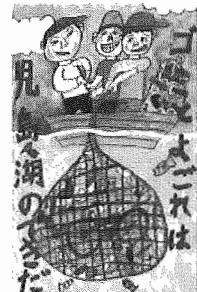
<協働の成果>

各種行事への参加について、流域内の住民や児島湖の環境保全に関心を持つ団体等へ呼びかけ、引き続き多数の参加が得られており、児島湖の環境保全についての意識と関心が得られている。

児島湖環境情報サイトHP <http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/kankanri/koiimako/index.htm>

(参考数値)

児島湖流域清掃大作戦の参加者	H19	H20	増減
	4,952人	5,670人	718人



<ポスターコンクール最優秀作品>

3 代表的な取組(Ⅱ)

○緑の保全と創造

・里山ふれあいの森づくり

植樹のつどい等の森林・林業体験や地域住民による森林ボランティア活動において、その参加者を指導することができる人材を養成し、県民参加の森づくりの積極的な推進を図った。また、地域住民団体等による里山ふれあい活動を支援し、美しい里山の再生と地域づくりを推進した。



〈森林ボランティア指導者育成研修〉

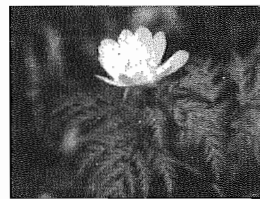
(参考数値)

	H19	H20	増減
里山林再生活動への支援数	6	10	4

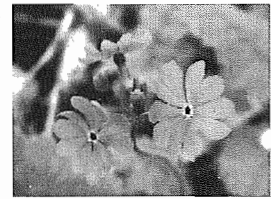
里山ホームページ http://www.pref.okayama.jp/norin/rinsei/gyoumu/satovama/satovama_top.htm

・希少野生動植物の保護

県内に生息・生育する希少な野生動植物の保護を図るため、岡山県希少野生動植物保護条例による指定希少野生動植物に新たに2種(ミチノクフクジュソウ、サクラソウ)を追加した。



〈ミチノクフクジュソウ〉



〈サクラソウ〉

(参考数値)

	H19	H20	増減
県条例指定の希少野生動植物の数(累計)	4	6	2

希少野生動植物の保護に関するHP

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=9583

〈協働の成果〉

森林・林業や森林ボランティア活動に関心のある者を対象に研修を行い、森林教室や各地域等において指導ができる人材を養成した。また、県下、10地域の里山保全グループにおいて里山林を活用した取組が企画・実践された。希少野生動植物については、既指定の4種と併せて啓発用のパンフレットを作成するとともに、専門家の助言をもとに県民等と協働して保護に向けた取組を進めた。

4 取り組むべき課題と対応方針

○生物多様性の確保

希少動植物の保護活動を、「地域で守ろう貴重な動植物」をキャッチフレーズに、地元の町内会や学校、NPO団体、民間企業等、多くの県民の協力を得て積極的に展開する。また、外来生物について、「入れない、捨てない、拡げない」の原則のもとに、県民の理解を深めるための普及啓発等を行う。

○児島湖の水質保全対策

児島湖の水質指標の中でリンは改善の兆しがいないため、児島湖底泥の実態調査・溶出調査や施肥等の使用状況調査を行っているが、引き続き、そのメカニズムの解明を図る必要がある。

5 総合評価

夢づくり協働指標の達成状況については、一部を除き概ね順調に推移している。

瀬戸内海の再生・活用、清流保全の取組やクリーンライフ100構想に沿った効率的な下水処理施設の整備、里山ふれあいの森づくりの推進や希少野生動物の保護活動、自然環境学習の推進など、重点施策・事業への取組についても一定の水準は確保できていると考える。

プログラム達成レベル

H19	H20	H21	H22	H23
3	3			

- 5 目標水準を大きく上回った
- 4 目標水準を上回った
- 3 概ね目標水準
- 2 目標水準を下回った
- 1 目標水準を大きく下回った

夢づくり政策評価シート

整理番号	209
担当部局	生活環境部

1 施策の概要

基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	地球環境プログラム
プログラムの概要	地球環境問題に対する身近な取組として、省エネ・省資源、グリーン購入等、県民の自主的な環境保全活動を促進するとともに、循環型産業システムの構築、クリーンなエネルギーの導入、温室効果ガスの吸収源対策等を進めます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
一人当たりゴミの排出量	g/日	1,033	1,005	1,003	1,004					
(指標の説明)各家庭や事業所から排出される一般廃棄物の削減を目指すもの										
アースキーパーメンバーシップ登録会員数	人・団体	5,042	10,000	6,972	7,592					
(指標の説明)地球温暖化防止のため、自ら環境への影響を減らす取組を継続的に行う人たちの会員登録数の増加を目指すもの										
産業廃棄物のリサイクル率	%	49.2	50.1	47.1	45.1					
(指標の説明)循環型社会の形成のため、産業廃棄物のリサイクル率の向上を目指すもの										
公共施設及び民間事業所における太陽光発電による総出力電力	kW	3,488	7,000	5,980	6,492					
(指標の説明)県内の公共施設及び民間事業所に設置された太陽光発電設備(10kW以上)の出力電力の増加を目指すもの										
岡山エコ事業所の認定件数	件	189	250	218	243					
(指標の説明)グリーン調達やゼロエミッションに積極的に取り組む環境にやさしい県内事業所の増加を目指すもの										

3 代表的な取組(Ⅰ)

アースキーパーメンバーシップ推進事業

アースキーパーメンバーシップ会員の積極的な取組の推進と制度の周知を図るため、地球温暖化防止活動推進センターと協力し、普及啓発事業として「アースキーパーのつどい」を開催した。

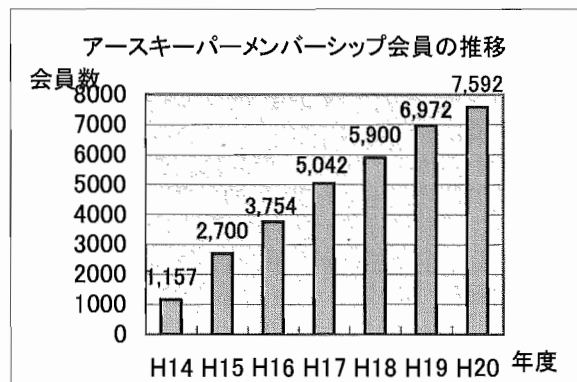
アースキーパーメンバーシップ制度HP http://www.okayama.kankyo.or.jp/earth_keeper/earth-top.html

<協働の成果>

地球温暖化防止のため、県民・事業者による、環境への影響を減らす活動への主体的取組が着実に広がっている。



アースキーパーのつどい



3 代表的な取組(Ⅱ)

循環型社会づくりの推進

「おかやま・もったいない運動」として、「晴れの国フォーラム」の開催をはじめ、小学生を対象とした「おかやま・もったいない！小学生チャレンジコンテスト」、「おかやま・もったいないアイデア」、「おかやま・もったいない宣言」などを通じて、もったいない精神を普及し、県民一人ひとりのライフスタイルに3R(リデュース、リユース、リサイクル)が定着するよう努めた。

また、マイバッグ運動やレジ袋無料配布中止の取組の促進、岡山県エコ製品や岡山エコ事業所の認定・普及などを通じて、循環型社会に向けたライフスタイルへの変革を図った。

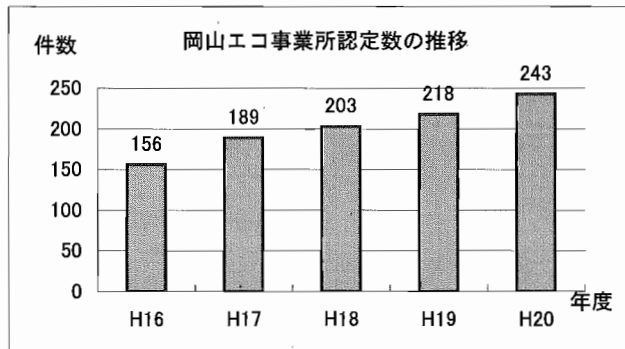
循環型社会推進課HP http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=30

<協働の成果>

「おかやま・もったいない運動」の各事業については、事業者・NPO・各種団体等で構成する「岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議」と協働で実施しており、県民各層に「もったいない精神」が浸透しつつある。



「おかやま・もったいない」晴れの国フォーラム



4 取り組むべき課題と対応方針

○温室効果ガス算定・報告・公表制度の推進

昨年度創設した「温室効果ガス算定・報告・公表制度」に基づき、本制度の適切な運営を図り、事業者の温室効果ガス排出削減に向けた自主的な取組を推進する。

○二酸化炭素森林吸収評価の認証

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=24569

企業等が「企業との協働の森づくり事業」等により森林を整備する活動の環境への貢献度を数値化するため、「岡山県二酸化炭素森林吸収評価認証制度」を創設し、今後、企業等が整備した森林による二酸化炭素吸収量を評価・認証し、認証書を企業等に交付する。

○事業者の資源循環の取組の推進

産業廃棄物については、がれき類等比較的リサイクルの容易な産業廃棄物の排出量が減少する一方、汚泥等リサイクルの難しい産業廃棄物の排出量が増加したため、リサイクル率が低下した。今後も、排出抑制を進めるとともに、資源循環に取り組む事業者への支援及び未利用資源の有効利用を図るための情報提供等を行う。

5 総合評価

夢づくり協働指標の達成状況では、一部を除き、進捗(達成)率は順調に推移している。重点施策の取組については、アースキーパーメンバースHIP制度の積極的な展開をはじめ、企業や地域での地球温暖化対策の一層の推進を図るとともに、エコドライブの推進によるCO2削減、有害化学物質やアスベスト対策などにより、環境保全の推進を図った。また、「おかやま・もったいない運動」等の各種取組により、県民生活や事業活動の中での3Rの推進を図った。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
3	3			
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

夢づくり政策評価シート

整理番号	210
担当部局	生活環境部

1 施策の概要

基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	都市・農村景観プログラム
プログラムの概要	潤いのある生活空間や優れた景観の創出と個性を生かしたまちづくりを推進するとともに、全国都市緑化おかやまフェアを平成21年に開催します。また、中山間地域等の美しい田園景観の保全など、自然と調和した農山漁村づくりに努めます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
景観形成に重点的に取り組んでいる地区等の数	箇所	7	15	8	10					
(指標の説明) 県、市町村が景観形成に重点的に取り組む地区を景観計画等に位置づけ、施策を推進するもの										
おかやまアダプト参加人数	人/年	27,000	40,000	33,980	35,751					
(指標の説明) 県管理の道路、河川等の定期的な清掃、緑化活動等を行う「おかやまアダプト事業」への参加者数の増加を目指すもの										

3 代表的な取組(Ⅰ)

○「晴れの国おかやま景観百選」

県民・市町村から良好な景観を募集し、県環境審議会景観部会で審査し、候補を決定した。

晴れの国おかやま景観百選HP

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=34105

○市町村の景観計画策定を支援

平成20年度に新たに瀬戸内市が景観法に基づく景観行政団体となった。

景観計画策定に取り組む市町村と連絡会議を開催し、情報交換を行った。



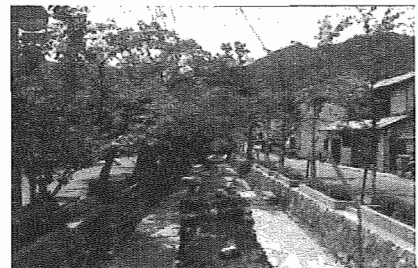
<閑谷背景保全地区>

<協働の成果>

県、岡山市、瀬戸内市及び早島町がそれぞれ景観計画を策定し、建築物の新築等の事前届出・審査などを通じて景観形成に取り組んでいる。

(参考数値)

	H19	H20	増減
景観計画策定済み団体数	3	4	1



<高梁景観モデル地区>

3 代表的な取組(Ⅱ)

○全国都市緑化おかやまフェアの開催

○暮らしや環境をテーマにした庭園や花壇の出展

・87の企業・団体が参加、各企業の新しい技術やデザインを提案

○自治体による特色を活かした花壇等の出展

・55の県外自治体、県内市町村などによるPR花壇やPRプランターの出展

○学校の出展等への参加

・9の高校・大学等による庭園の出展や、15の小中学校による「ももっち1000人大花壇」作成への参加

岡山県、岡山市の公的広報媒体の活用や、マスコミの協力を得て、全県的な広報を展開した。

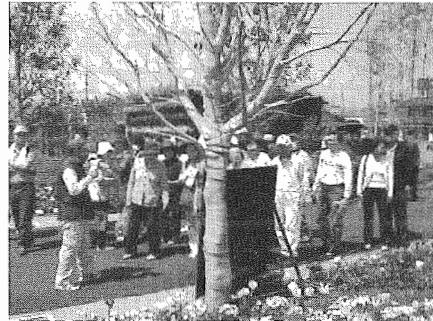
<協働の成果>

166の企業・団体による庭園出展や、県民・市民によるハンギングバスケット、生け花などの展示や出展、さらには県民・市民参加のイベントや体験教室など、多くの方が様々な形でフェアに参加した。

また、800人を超えるボランティアが、花の手入れや清掃、会場案内などの業務を担ったほか、桃太郎大通りや西大寺の街中などで、地域や事業所の方がプランターの設置や維持管理を行った。



<ももっち1000人大花壇>



<ボランティアによる会場案内>

4 取り組むべき課題と対応方針

○市町村景観計画の策定支援

市町村が景観行政団体となって景観計画を策定し、独自に景観施策を行っていくことを、制度や他市町村の状況を情報提供する等の方法で支援していく。

○緑豊かな潤いのあるまちづくり

「第26回全国都市緑化おかやまフェア」の開催を契機に培われた県民との協働の取組を生かし、市町村と連携しながら、緑豊かな潤いのあるまちづくりを推進する。

5 総合評価

夢づくり協働指標の達成状況では、概ね順調に推移しており、さらに倉敷市が今年度景観計画を策定予定であることから、今後、地区数の増加が見込まれる。

また、全国都市緑化おかやまフェアの開催やおかやまアダプトの推進、農山村のふるさと資源の保全推進など、重点施策等への取組も概ね目標水準であると考えられる。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
3	3			
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

夢づくり政策評価シート

整理番号	301
担当部局	産業労働部

1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	地域産業プログラム
プログラムの概要	活力ある本県産業の形成に向けて、元気な中小企業やオンリーワン企業を支援します。また、地域特性に応じた地場産業の活性化、水島コンビナートの国際競争力強化とともに、産業人材の育成に関係機関と連携して取り組みます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
経営革新に取り組む中小企業数	社	117	600 (5年間)	143	122				
(指標の説明) 新商品や新サービスの開発等を行う経営革新計画を策定する中小企業の増加を目指すもの									
製造品出荷額等	億円/年	66,837	75,000	82,973 (H18.12)	82,539 (H19.12)				
(指標の説明) 県内製造業の出荷額等の状況									

3 代表的な取組(Ⅰ)

■ 経営革新による企業活力の向上及び建設業の新分野進出支援

意欲ある中小企業が自らの創意・工夫を生かして行う経営革新の取組について、県が企業の経営革新計画を承認し、低利融資、税制の特例、補助金等の施策により積極的に支援した。とりわけ公共投資の縮減等により厳しい経営環境にある建設業者を支援するため、各種施策を「建設業支援パッケージ」として取りまとめ、庁内の関係部(土木部、農林水産部)や支援機関・団体が連携し、特に新分野進出支援について相談窓口の設置やトータルサポーターによる継続的指導、新分野進出の際の経費助成による支援を行った。

<協働の成果>

中小企業、産業振興財団・商工会議所等の支援機関、県が協働し計画策定及びフォローアップを推進し、とりわけ建設業の新分野への進出を支援した。



運転代行の経営



青大豆の栽培と販売

経営革新計画承認企業の内訳業種別割合

業種	企業数(社)	割合(%)
製造	48	39.3
建設	26	21.3
運輸・通信	6	4.9
卸売・小売	14	11.5
飲食・宿泊	5	4.1
サービス	18	14.8
その他産業	5	4.1
合計	122	100.0

(参考数値)

経営革新計画承認企業	H19	H20	増減
	143	122	△21

・経営支援課(中小企業経営革新制度による支援)
<http://www.pref.okayama.jp/sangyo/keiei/keiei406.htm>

建設業の新分野進出計画承認件数	H19	H20	増減
	13	18	5

・岡山県建設業支援サイト
<http://www.okaken-shien.jp/>

3 代表的な取組(Ⅱ)

■ 広域受注開拓の支援

平成20年度において、県内外の下請取引のあっせんを2,064件実施した。

また、広域受注開拓のため、県内受注企業と協働の下、県内外の企業を対象とした「商談会」を開催するとともに県内企業の製品・技術等を展示する「製品展示商談会」を愛知県において開催した。特に20年秋以降の世界的な経済の減退に対応して、緊急の商談会や自動車関連企業と造船関連企業をマッチングさせる商談会を開催した。

○ 第1回広域商談会

平成20年7月24日 岡山市内にて開催

○ 緊急広域商談会

平成20年12月18日 倉敷市内にて開催

○ 第2回広域商談会

平成21年 2月19日 岡山市内にて開催

○ 三井造船関連企業と三菱自動車関連企業商談会

平成21年3月3日 玉野市にて開催

○ 製品展示商談会(自動車部品加工技術展示商談会)

平成21年3月13日 愛知県にて開催

< 協働の成果 >

商談会では、県内受注企業と連携し、取引の拡大に取り組んだ。



(参考数値)

	H19	H20	増減
商談会開催回数	4	5	1

・(財)岡山県産業振興財団

<http://www.optic.or.jp/modules/zaidan06/index.php?id=8>

4 取り組むべき課題と対応方針

○ 中小企業の支援と地域産業の活性化

厳しい経営環境の中、企業経営や地域産業の活性化のため、県内中小企業者の新分野への進出や新たな受注先開拓などに対して、引き続き支援していく必要がある。特に建設業者に対しては、現地相談員による直接訪問を実施し、よりきめの細かい相談ニーズの把握や新分野進出情報の収集を行う。

○ 緊急の中小企業対策

緊急の中小企業対策として経営相談や商談会等に積極的に取り組み、経営の安定化を図る必要がある。また、21年度においても国の公募型事業への積極的な応募や産業振興財団に設けた「きらめき岡山創成ファンド」等の活用により新商品開発や販路開拓などの支援に取り組む。

5 総合評価

積極的に新しい事業に取り組む、新商品や新サービスの開発等を行うことなどを内容とする県内中小企業の経営革新計画の承認件数は、概ね目標値となっている。

また、広域受注開拓のため県内外での商談会等の開催や商店街の活性化への支援など、地域産業を支える支援体制の確立に取り組んだ。

さらに、厳しい経営環境にある建設業に対し、「建設業支援パッケージ」の各種施策の円滑な実施と情報交換を進めた結果、新分野進出の成功事例が生まれた。

プログラム達成レベル

H19	H20	H21	H22	H23
4	3			

- 5 目標水準を大きく上回った
- 4 目標水準を上回った
- 3 概ね目標水準
- 2 目標水準を下回った
- 1 目標水準を大きく下回った

夢づくり政策評価シート

整理番号	302
担当部局	産業労働部

1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	新産業プログラム
プログラムの概要	本県の経済を支える新しい産業基軸の構築を目指し、ものづくり重点4分野(超精密生産技術、バイオ、医療・福祉・健康、環境)を中心として、産学官連携により、新製品・新技術を生み出す岡山版産業クラスターの形成を一層推進するとともに、力強いベンチャー企業の育成に取り組みます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
岡山版産業クラスターで開発された製品の数	件	90	235	129	150					
(指標の説明)産学官連携組織(産業クラスター)での新製品・新技術の開発を目指すもの										
大学発ベンチャー企業数	社	23	35	32	33					
(指標の説明)県内の大学及び高専の研究成果や特許等を活用した大学発のベンチャー企業を数多く生み出すことを目指すもの										

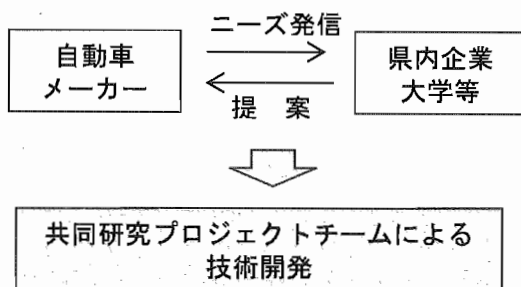
3 代表的な取組(I)

■マイクロものづくり産業クラスターの形成

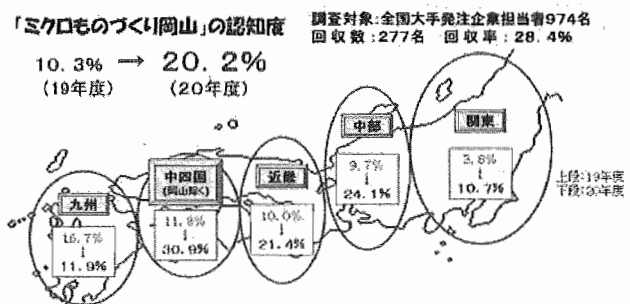
マイクロものづくり産業クラスターの形成に向けて、企業・大学・工業技術センター等の産学官連携による共同研究を強力に進めている。特に、平成20年度においては、今後成長が見込まれる「次世代自動車分野」「ロボット分野」をターゲットに、川下企業ニーズの事業化を目指す県内企業等の取組を支援した。

また、大規模展示会への出展等により「マイクロものづくり岡山」のブランド形成に取り組んだ結果、「マイクロものづくり岡山」の認知度が高まってきている。

○岡山県次世代自動車関連技術研究会 (H20.7設立)



○全国大手発注企業に対するアンケート



<協働の成果>

技術の高度化や技能伝承等を図るため、県内企業と協働でテーマを設定しながら、大学等の協力を得て、研修やセミナー(マイクロものづくり大学)を開催し、平成20年度は平成19年度を上回る参加を得た。

(参考数値)	マイクロものづくり大学参加者数	H19	H20	増減
		677	880	203

・マイクロものづくり岡山
<http://www.optic.or.jp/micro/>

3 代表的な取組(Ⅱ)

■ベンチャーの発掘・育成

○インキュベーション施設等による育成

PFI方式により整備した岡山リサーチパークインキュベーションセンターにおいて、情報通信やものづくりの分野を中心に新規創業や新製品開発を目指すベンチャー企業等に対し、専属のインキュベーションマネージャー等がきめ細かい支援を行っており、高度な技術力や将来性により注目を集める企業が生まれつつある。

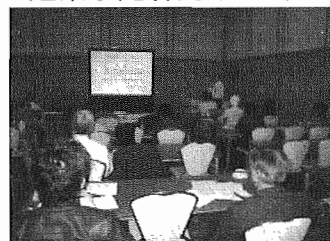
ORIC(岡山リサーチパークインキュベーションセンター)



○起業家の発掘・育成

ビジネスプランコンテストを通じて、新たな起業家の発掘を行うとともに、起業予定者やベンチャー企業経営者を対象に、ビジネスのノウハウ習得やプレゼンテーションスキルアップ、ビジネスプランのブラッシュアップなどの研修を行った。

起業予定者向けセミナー



<協働の成果>

岡山県産業振興財団をはじめとするベンチャー支援機関や県内インキュベーション施設、大学等で情報を共有化するなど、協働しながら効果的に創業促進・育成施策を実施した。

(参考数値)

ORIC 入居企業分野 (H21.3現在)	分野	企業数
	情報通信	10
ものづくり	14	

・ORIC(岡山リサーチパークインキュベーションセンター)

<http://www.oric.ne.jp/~oric/index.html>

・(財)岡山県産業振興財団

<http://www.optic.or.jp/modules/zaidan03/>

(参考数値)

ORIC 延べ入居企業数	H19	H20	増減
	72	74	2

4 取り組むべき課題と対応方針

○岡山版産業クラスターの推進

企業とのマッチング等により、大学等の研究シーズを具体的な製品開発や創業に結びつける必要がある。研究開発や技術開発等の支援を強力に推進するとともに、開発された製品の販路開拓支援などに積極的に取り組む。

○ベンチャーの育成

現在育ちつつあるベンチャー企業に続く有望な起業家を数多く発掘する必要がある。起業支援機関や地元経済団体等との連携強化、情報の共有化を通じて、ベンチャービジネスプランコンテストや起業予定者向けのセミナーなど各種支援施策の効果的な実施に取り組む。

5 総合評価

夢づくり協働指標の平成20年度の進捗状況は、目標どおり推移している。

ものづくり重点4分野を中心とする産業クラスターの形成については、「マイクロものづくり岡山推進協議会」、「おかやま食品産業クラスター協議会」、「循環資源活用推進研究会」等の産学官連携組織を母体にした新産業構築に向けた活動が活発になっている。また新技術・新製品の開発等への支援も順調に進んでいる。

プログラム達成レベル

H19	H20	H21	H22	H23
3	3			

- 5 目標水準を大きく上回った
- 4 目標水準を上回った
- 3 概ね目標水準
- 2 目標水準を下回った
- 1 目標水準を大きく下回った

夢づくり政策評価シート

整理番号	303
担当部局	産業労働部

1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	戦略的企業立地プログラム
プログラムの概要	陸海空の広域交通ネットワークの整備を推進するとともに、ミクロものづくり分野をはじめとする企業をターゲットにするほか、次代の成長産業を見据えた戦略的な誘致活動を進めます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
企業立地件数	件	24	150 (5年間で)	35	20				
(指標の説明) 県内への企業立地促進を目指すもの									
国際航空貨物量	トン/年	471	5,000	1,679	243				
(指標の説明) 物流拠点としての岡山空港の利用促進を目指すもの									

3 代表的な取組(I)

■ 産学官の連携による誘致活動の推進

岡山県企業誘致推進協議会や企業誘致アドバイザーと連携し、そのノウハウや人的ネットワークを活用しながら、ターゲットとする分野の企業における設備投資情報等の収集を図るとともに、収集した情報を生かし、産学官の協働による企業誘致活動を展開している。

<協働の成果>

経済団体、金融機関、学術研究機関等22団体で構成する岡山県企業誘致推進協議会を設けるとともに、各会員団体から企業誘致アドバイザーの推薦を受け(161名)、産学官連携のもとに、企業情報の収集や誘致の働きかけを行った。

(参考数値)

	H19	H20	増減
企業誘致アドバイザーの数	157名	161名	4



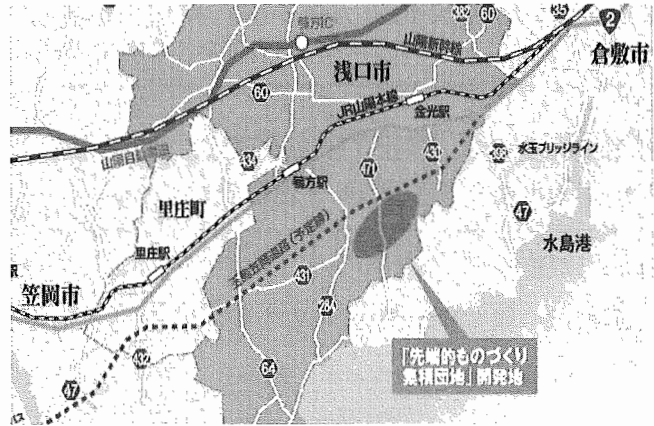
3 代表的な取組(Ⅱ)

■ 分譲用地の確保

県南部への企業の進出意欲が高く、特に県南部においては企業用地が逼迫してきている。そのため、浅口市の「先端的ものづくり集積団地」の整備促進を支援するとともに、市町村等と連携し、分譲可能な民有地情報を集め、東京事務所・大阪事務所等を通じて、進出意欲のある企業に提供した。

〈協働の成果〉

- 1 先端的マイクロものづくり集積団地構想を推進するため、浅口市に対して、技術職員の派遣や各種手続等の支援を行うとともに、企業訪問時やフォーラム開催時などの機会に団地のPRに努めた。
- 2 市町村との連携を密にし、市町村が把握している民間の遊休地、工場跡地等の情報を収集し、企業に対して提供した。



・晴れの国おかやま産業立地ガイド

<http://www.pref.okayama.jp/sangyo/kiritsu/vouchi/index.html>

4 取り組むべき課題と対応方針

○大型企業誘致の実現

昨年度は後半、世界的不況の影響を受け、県内への企業立地は20件に留まった。また、懸案となっている大型企業誘致は実現しなかった。今後とも、成長が見込める分野にターゲットを絞り、企業の設備投資計画に係る情報収集力の強化等に努め、引き続き大型企業誘致を目指す。

○企業用地の確保

「先端的ものづくり集積団地」の整備を進めている浅口市に対して支援を引き続き行う。特に用地が逼迫している県南部においては、市町村等と連携して民有地情報を収集し、進出意欲のある企業に対して積極的な提供を行っていく。

5 総合評価

産学官連携のもと、ターゲットを絞って企業誘致活動を推進してきた。年度後半からの世界的な不況の影響を受け、企業の投資意欲が減退する中で、県内の誘致企業数は目標を下回る20件となった。	プログラム達成レベル				
	H19	H20	H21	H22	H23
	4	2			
	5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

夢づくり政策評価シート

整理番号	304
担当部局	産業労働部

1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	観光プログラム
プログラムの概要	国内外から多くの観光客が訪れるよう、「観光・岡山」のブランドを確立し、岡山の魅力の発信とともに、団塊世代や女性を意識した観光客誘致活動を展開します。また、おもてなしの推進などに努めます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
観光消費額	億円/年	1,416	1,530	1,483	1,463					
(指標の説明)観光客が県内で消費する額の増加を目指すもの										
観光客入り込み数	万人/年	2,550	2,710	2,502	2,481					
(指標の説明)観光施設等への入込客数の増加を目指すもの										
観光ボランティアガイドの数	人	560	700	628	638					
(指標の説明)岡山県観光ボランティアガイド連絡会構成団体のボランティアガイド数の増加を目指すもの										

3 代表的な取組(I)

■ インバウンド(外国人観光客)の促進

ソウル特別市(韓国)、上海市(中国)での国際観光展等へ出展し、県内観光地及び物産のPRを行った。また、韓国、中国、台湾など東アジア地域をターゲットに、近隣府県とも連携し、現地の旅行業者等を招請しての視察旅行や商談会を行い、旅行商品の造成を働きかけるなど、国により異なる観光ニーズを踏まえた誘致活動を行った。加えて、欧米からの個人旅行者の誘客促進を図るため、北米の訪日旅行者向けフリーペーパーに岡山特集記事を掲載した。

<協働の成果>

岡山空港において、海外チャーター便等の到着時に「岡山県外国人観光客受入協議会」と連携して、外国人観光客に対し歓迎行事を実施し、岡山の温かいおもてなしを印象づけた。

また、韓国教育旅行者に対して「通訳ボランティア」とともに岡山駅前の自由行動を支援した。このようなおもてなしによって、海外からのリピーター客等の誘致を促進することができた。



<韓国教育旅行生の支援(岡山駅前)>

(参考数値)

県内への外国人旅行者宿泊者数(単位:千人)	H19	H20	増減
	61	62	1

・観光物産課HP

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=46

3 代表的な取組(Ⅱ)

■「観光・岡山」ブランドの確立のためのPR

本県を訪れる観光客が最も多い関西地域において、岡山の魅力を体感してもらうため、「観光・岡山ブランド」の食のカテゴリー(おかやま黒まめ、地酒、あなご、黄にら)及びフルーツ、旬の食材を用いた新メニューを開発し、食のイベントを開催した。

<「観光・岡山ブランド」のPR>



<協働の成果>

生産者等関係団体との連携のもと、「観光・岡山」ブランドの確立に向けた取組が進んだほか、関西地域において口コミによる情報発信ができた。



<五感で味わう夏の岡山屋餐会>

(参考数値)

	H19	H20	増減
観光客入り込み客数(万人/年)	2,502	2,481	△21

・観光物産課HP

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=46

4 取り組むべき課題と対応方針

○「地域発観光」の推進

誘客促進を一層進めるためには、地域の魅力をさらに高めて情報発信する必要がある。このため、「岡山県観光立県戦略」に基づき、地域が主体的に取り組む新たな地域発の観光ルートの開発等に対し、積極的な支援を行うとともに国内外に向けて情報発信を行う。

○インバウンド(外国人観光客)の増加促進

本県の国際的な知名度が不足していることから、本県の魅力をPRする記事を有名旅行雑誌へ掲載する等、知名度の向上を図るとともに、ビジット・ジャパン・キャンペーン(VJC)等の事業と呼応して近隣府県とも連携し、海外からの誘客を促進する。

5 総合評価

夢づくり協働指標の平成20年度の進捗状況は、観光ボランティアガイド数は増加しているものの、観光消費額及び観光客入り込み数については、昨年の世界的な経済情勢悪化や原油高騰等による個人消費の落ち込みなどにより若干減少した。

プログラム達成レベル

H19	H20	H21	H22	H23
3	3			

- 5 目標水準を大きく上回った
- 4 目標水準を上回った
- 3 概ね目標水準
- 2 目標水準を下回った
- 1 目標水準を大きく下回った

夢づくり政策評価シート

整理番号	305
担当部局	農林水産部

1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	農林水産業プログラム
プログラムの概要	農林水産業が将来にわたり持続的かつ安定的に発展するよう、意欲あふれる新規就農者等や力強い経営体の確保・育成を図るとともに、高品質な農林水産物の生産振興や「おかやまブランド」の形成、地産地消運動を推進します。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
新規就農者の数	人/年	99	110	114	114					
(指標の説明) 担い手の減少や高齢化の進行に対処するため、新規就農者を年間110人確保するもの										
定年帰農者等の数	人/年	45	100	102	112					
(指標の説明) 担い手の減少に対処するため、定年後に農業を専従で始める定年帰農者等を年間100人確保するもの										
認定農業者等の担い手数	経営体	3,372	3,600	3,437	3,457					
(指標の説明) 効率的かつ安定的な農業経営体を確保するため、意欲と能力のある経営感覚に優れた認定農業者等を育成するもの										
有機無農薬農産物の生産量	トン/年	1,372	1,600	1,455	1,509					
(指標の説明) 土づくりを基本として、農薬、化学肥料を使用せず生産された農産物の生産量										
おかやま次世代フルーツの栽培面積	ha	24	200	45	77					
(指標の説明) 県が育成した期待の新品種である桃「おかやま夢白桃」、ぶどう「オーロラブラック」の栽培面積										

3 代表的な取組(I)

新規就農者等の確保・育成

県内外で開催する就農相談会、交流・定住フェア、ホームページ等で、就農支援制度や就農までのプロセス、各市町村の受入態勢、作物ごとの経営モデルなど、具体的な就農情報の提供に努めるとともに、毎月15万円の研修費を支給する農業実務研修をはじめとする各種の技術修得研修を実施するなど、新規就農者等の確保・育成に取り組んだ。

<協働の成果>

県及び地域段階に設置している「担い手育成総合支援協議会(担い手育成財団やJAなどの農業団体や行政等で構成)」を中心に、関係団体が連携した取組が行われた。



就農相談会



技術修得研修



新規就農

(農業経営課HP) http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=51

(参考数値)

	H19	H20	増減
就農相談件数	542	826	284
農業実務研修による就農者数	7	13	6

3 代表的な取組(Ⅱ)

地産地消の推進

生産者と消費者の相互理解を深め、安全で安心な県産農林水産物の安定供給と消費拡大を図る「地産地消県民運動」に取り組んでいるが、地産地消が県民にとってさらに身近なものとなるように、スーパー等への地産地消PR資材(「のぼり」、「店頭POP」)貸付などを通じた常設コーナーの設置促進、各種イベントや地産地消商談会の開催、学校給食での地場産食材の使用や食育活動等を通じて地場産食材の利用促進に取り組んだ。

(農政企画課HP) http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=49

<協働の成果>

スーパー等事業者との協働推進の結果、地産地消のPRと販売を兼ねた地産地消常設コーナー設置店舗数が増加した。また、農林水産団体等との連携によるイベントの開催や、学校給食での取組等により、地産地消の県民への浸透が図られた。



新規設置したスーパーの常設コーナー



農林水産祭(H20.10)



小学校での地場産食材による給食

(参考数値)

	H19	H20	増減
地産地消常設コーナー設置店舗数(店)	59	71	12

	H19	H20	増減
学校給食における地場産食材使用割合(%)	41	44.7	3.7

4 取り組むべき課題と対応方針

○ 農林水産物の生産振興と販路拡大及び食料自給率の向上

事故米の不正流通や輸入食品への有害物質の混入、産地の偽装表示等相次ぐ食品の不正事例の発生に伴い、消費者の食の安全への関心はかつてないほど高まっている。このため、引き続き安全・安心で高品質な県産農林水産物の生産振興に努めるとともに、首都圏や海外への販路拡大を図る攻めの農政の展開や、食料自給率向上を目指した地産地消等県民運動の展開、農商工連携による米粉新製品の開発等を推進する。

○ 多様な担い手の確保・育成

過疎化や高齢化の進行に伴い農林水産業における担い手不足が問題となる一方で、景気悪化により失業者が増加する中、農業等への就業相談が増加している。このため、県内外での就農相談会等を通じて新規就農者等の確保・育成に努めるとともに、意欲と能力のある経営感覚に優れた認定農業者の育成、集落営農の組織化・法人化や企業の農業参入等を通じ、多様な担い手の確保・育成を図る。

5 総合評価

	プログラム達成レベル				
	H19	H20	H21	H22	H23
<p>夢づくり協働指標の達成状況では、担い手の確保では新規就農者を114人及び定年帰農者等を112人確保し年間目標を上回るとともに、認定農業者等の担い手数が3,457経営体へと増加した。また、生産面でも有機無農薬農産物の生産量が1,509t、おかやま次世代フルーツの栽培面積が77haへと増加するなど、目標の達成に向けて順調に進んでいる。</p> <p>引き続き重点施策の着実な実施に努め、目標達成に向けて取り組む。</p>	4	4			
	<p>5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った</p>				

夢づくり政策評価シート

整理番号	306
担当部局	産業労働部

1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	就労プログラム
プログラムの概要	性別や年齢、障害などにとらわれず、適性に応じて働くことのできる多彩な就労環境を整備します。特に若者の就職支援に強力に取り組むほか、2007年問題に対応して団塊世代の就職を支援し、労働力の確保と技術・技能の伝承に努めます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
若者就職支援センターからの就職決定者数	人/年	535	680	685	695				
(指標の説明)おかやま若者就職支援センターの就職支援による就職決定者の増加を目指すもの									
生産年齢人口の就業率	%	70.1	72	70.8	68.8				
(指標の説明)生産年齢人口(15~64歳)の就業の促進を目指すもの									

3 代表的な取組(I)

■若者の就職支援

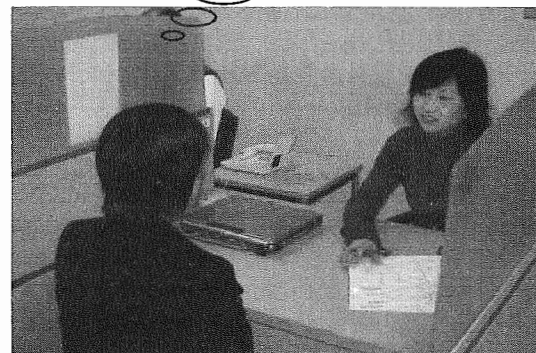
地域における若年者の就職支援のためのワンストップサービスセンターとして、「おかやま若者就職支援センター」では、若年失業者やフリーター等を対象に、カウンセリングから職業紹介までの一貫した就業に関するサービスを提供している。

また、県では、ニートが就労し自立して生活することができるよう、保健・福祉、教育、青少年及び労働分野等の関係機関・団体で「おかやま若者自立支援ネットワーク」を構築し、国の「おかやま地域若者サポートステーション」と連携しながら、必要な支援を行っている。

《 おかやま若者就職支援センター利用状況 》

	来所者数	登録者数	就職決定者数
平成19年度	9,126	958	685
平成20年度	10,248	1,224	695

センターでの
カウンセリング風景



〈協働の成果〉

労働局はもとより、保健・福祉、教育、青少年及び労働分野等の様々な関係機関・団体等が連携し、若者の就職支援に取り組み、就職決定者数の増加につながった。

・おかやま若者就職支援センター
<http://www.y-workokayama.jp/>

・おかやま地域若者サポートステーション
<http://www.ok-saposute.com/>

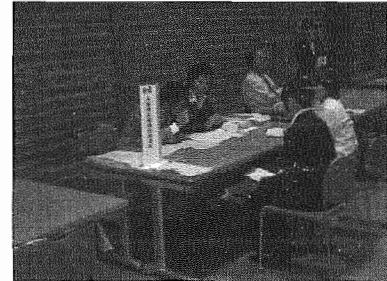
3 代表的な取組(Ⅱ)

■ 障害のある人の就業支援

障害のある人がそれぞれの能力や適性に応じた職に就き、自立・社会参加できるよう、障害者就職準備講習会・就職面接会や職場適応訓練を実施するとともに、障害のある人の雇用拡大に向けた普及・啓発等を行っている。

	実雇用率		雇用率達成企業割合	
	岡山県	全国	岡山県	全国
平成19年度	1.74%	1.55%	54.9%	43.8%
平成20年度	1.79%	1.59%	55.4%	44.9%

※法定雇用率=1.80%



就職面接会での面接風景

〈協働の成果〉

障害のある人の自立・安定した職業生活の実現を図るため、県内各地において、雇用、保健・福祉、教育等の関係機関が協働して、一体的な支援を行った。

4 取り組むべき課題と対応方針

○ 若者の就職支援

全国的にフリーター数は依然として高い水準にあり、ニート等の相談者数も増加していることなどから、正規雇用に向けた支援や就労し自立した生活を目指した支援をさらに促進するため、おかやま若者就職支援センターやおかやま地域若者サポートステーションによる一層きめ細やかな支援を行っていく。

○ 障害のある人の就業支援

障害のある人の実雇用率、雇用率達成企業割合はいずれも全国平均は上回っているものの、実雇用率は法定雇用率(1.80%)を下回っているため、事業主に対する支援、障害者雇用に関する啓発等の取組を引き続き進めていく。

5 総合評価

	プログラム達成レベル				
	H19	H20	H21	H22	H23
雇用情勢の悪化により生産年齢人口の就業率は目標をやや下回っている。一方、「若者就職支援センターからの就職決定者数」については、マンツーマンによるきめ細かいカウンセリング等に努めた結果、目標値を上回ることができた。	3	4			
雇用情勢については厳しさを増していることから、国や市町村等との緊密な連携のもと、雇用機会の創出や離職者に対する支援などの各種雇用施策のより一層の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った 				

夢づくり政策評価シート

整理番号	307
担当部局	土木部

1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	交通基盤プログラム
プログラムの概要	人や物のグローバルな交流や移動を支え、国や地域相互の幅広い交流と連携、人々の日常生活や地域活動を支援するため、広域交通網等の交通基盤の整備を推進するとともに、空港や港湾等の利用促進に努めます。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
おかやまスタンダードによる 国道・県道の整備割合	%	73	76	74.3	74.7				
(指標の説明) 県内の道路整備が、どの程度進んでいるかを表すもの									
主要な渋滞箇所のうち渋滞 が緩和された交差点の数	箇所	14	24	17	18				
(指標の説明) 主要な渋滞箇所のうち交通容量拡大策の推進などによって、著しい渋滞が緩和された交差点の数									
岡山空港利用者数	千人/年	1,574	1,750	1,511	1,434				
(指標の説明) 岡山空港の国内・国際定期路線とチャーター便の利用者合計で、利用者数の増加を目指すもの									
国際コンテナ取扱量	千トン/年	1,871	2,400	2,025	2,017				
(指標の説明) 国際物流港湾として、水島港で輸出入されるコンテナ取扱量の増加を目指すもの									

3 代表的な取組(Ⅰ)

◎水島港の機能強化

※港湾課HP http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=66

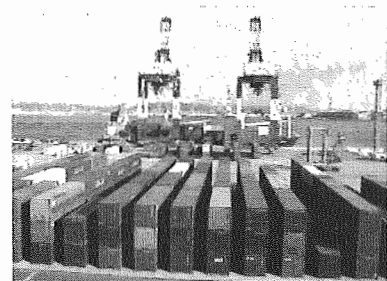
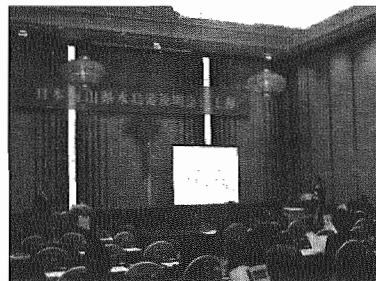
水島港の背後圏の発展に伴う物流需要の増大、コンテナ化の進展などの物流機能の、より一層の強化・充実、地域産業の高度化・活性化の促進を図るために、玉島ハーバーアイランドの整備を進めている。

平成20年度から、国において、新高梁川橋梁や玉島ハーバーアイランドの水深12m岸壁等が新規事業化しており、初年度(平成20年度)は、工事に必要な測量調査や設計を行った。

県では、橋梁及び岸壁の床堀残土や航路浚渫の残土を受け入れるため、玉島ハーバーアイランド沖出し部の浚渫土処理護岸の建設工事に着手し、工事の進捗を図った。

<協働の成果>

岡山県、倉敷市、製造業、貿易、港運等の関係者で構成する「水島港インターナショナルトレード協議会」が、官民一体のポートセールスに取り組んでいる。



3 代表的な取組(Ⅱ)

◎瀬戸大橋の利用促進……瀬戸大橋開通20周年記念事業

◇記念式典・記念植樹(H20.4.12 与島パーキングエリア)

式典では、瀬戸大橋が開通した昭和63年4月に生まれた岡山・香川両県の新成人11人が、共同宣言を行い、両県の知事、県議会議長、新成人の代表が、岡山県の県木「アカマツ」、香川県の県木「オリーブ」などを記念植樹した。

◇健康ジョギング・健康ウォークの橋上イベント(H20.4.13)

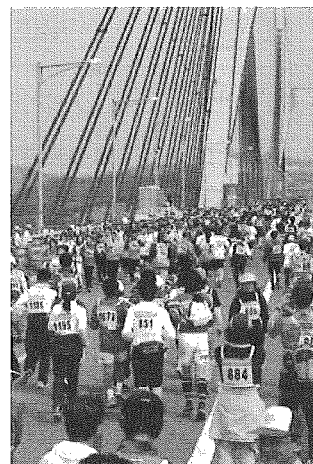
健康ジョギング(1,829人)、健康ウォーク(5,061人)と、県内外から多数の参加者を迎えることで、瀬戸大橋の魅力を全国的に情報発信した。

<協働の成果>

橋上イベントでは、地元高校生をはじめとしたボランティアが、参加者受付やイベント会場への誘導などに活躍し、イベントの円滑な運営に寄与した。



記念式典



橋上イベント(健康ジョギング)

※監理課HP <http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec sec1=59>

4 取り組むべき課題と対応方針

○物流拠点機能の早期整備

新高梁川橋梁や玉島ハーバーアイランド水深12m岸壁等の早期完成に向けて、県としても最大限の協力を行う。

○瀬戸大橋の利用促進

- ・国に対して、料金引下げ措置の恒久化を働きかける。
- ・平成21年3月から、ETC車限定で、通行料金が引き下げられたことを受け、瀬戸大橋の利用が促進され、地域活性化が図られるよう、香川県をはじめとした中四国の一層の連携強化に努める。

5 総合評価

道路、港湾等の交通・物流基盤整備などの重点施策を計画的・重点的に行うことにより、県民生活の利便性向上や安全・安心の確保につながるよう取り組んでいるが、景気の低迷によって、夢づくり協働指標のうち、実績が厳しいものがある。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
3	3			
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

夢づくり政策評価シート

整理番号	308
担当部局	企画振興部

1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	ユビキタス実感プログラム
プログラムの概要	教育や医療・福祉、産業等、生活のあらゆる面でITの利活用が定着し、誰もが意識することなく自在にITを使いこなしているユビキタス社会の実現を目指して、次代を見据えたネットワークの高度利用を推進します。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
高画質な映像の送受信を可能とする無線スポット数	スポット	185	600	242	262					
(指標の説明)民間施設及び県施設、公民館、図書館等公共施設への設置によりおよそ400スポットの増加を目指すもの										
ICカード(非接触型)が利用できるスポット数	スポット	250	800	2,457	3,230					
(指標の説明)装置にかざすだけで簡単に利用することができるICカードなどが利用できるスポットのこと										

3 代表的な取組(I)

「新たなネットワーク構想の推進」

誰もが、いつでも、どこでも、インターネットを利用できるユビキタス・ネットワーク環境の創出のため次の取組を行った。

・外出先でも気軽にインターネットが利用できる無線LANを、市町村との協働により公共施設へ設置した。

【無線LAN設置箇所】

マスカットスタジアム、桃太郎スタジアム、桃太郎アリーナ、県立博物館、県立美術館、岡山武道館、早島町役場、早島町民総合会館、早島町中央公民館、岡山市高島公民館

・ブロードバンド・ゼロ地域の解消に市町村と連携して取り組んだ。

ブロードバンド世帯カバー率が前年比0.9ポイント増の99.1%(21年3月末現在)となり、ブロードバンド世帯普及率は中四国地方のトップとなっている(20年12月末現在54.5%)。

(協働の成果)

公共施設での無線LANサービスが、広く県民に利用されている。また民間との協働による無線スポット数も増加傾向であり、ユビキタス・ネットワーク環境が形成されつつある。



(参考数値)

ブロードバンド カバー率	H19	H20	増減
	98.2%	99.1%	0.9ポイント
ブロードバンド 普及率	H19	H20	増減
	51.1%	54.5%	3.4ポイント

公衆無線LANサービス利用の様子

おokayamaモバイルSPOTホームページアドレス

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=25040

3 代表的な取組(Ⅱ)

「オンライン行政サービスの利用促進等」

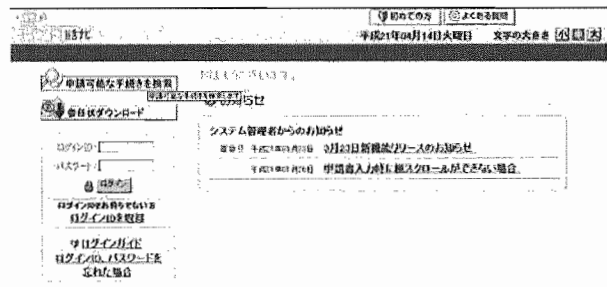
誰もが、いつでも、どこでも、インターネットを利用できるユビキタス・ネットワーク社会を実感してもらうため次の取組を行った。

- ・地域コミュニティ機能の活性化と地域に根ざしたITの利活用の促進を図るモデル事業として、新見市において公民館での活動を支援する「地域活動サポート事業」と、真庭市において住民参加型の情報提供システムを構築する「こどもICT(愛して)ネットワーク事業」に対し支援を行った。
- ・県民の利便性の向上と電子自治体の推進を目的として汎用電子申請システムのリニューアルを行い、クレジットカードによる納付や携帯電話での利用といった機能を拡充した。

(協働の成果)

バス・JRの運賃の支払いや、取扱店舗での支払いに使用できるICカードを用いた電子マネーのスポット数は急速に増加しており、すでに目標値を上回っている。

市町村との協働により、地域に根ざしたIT利活用を促進することで、ユビキタス・ネットワーク社会を県民に実感してもらうことができた。



電子申請ホームページの画面

ホームページアドレス <http://www.enavi->

(参考数値)

県・市町村電子申請利用件数	H19	H20	増減
	17,701	18,939	1,238

4 取り組むべき課題と対応方針

○中山間地域等のIT基盤の整備促進

ブロードバンド世帯カバー率は99.1%(21年3月末現在)となっているが、カバー率100%に向け、引き続きブロードバンド・ゼロ地域の解消が必要である。残る地域は中山間地域が多く、従来の有線方式での整備を促進するとともに、無線等の活用を検討する。

○電子申請の普及

電子申請の利用を拡大するため、リニューアルを行い一層使いやすくなった汎用電子申請システムについて、市町村との協働により普及啓発活動に取り組む。

5 総合評価

夢づくり協働指標の達成状況であるが、無線スポット数は県の公衆無線LANサービスの開始などにより着実に増加している。

ICカードのスポット数については既に目標を上回っている。ブロードバンド世帯普及率は中四国地方で最初に50%を突破するなど、ユビキタス社会の実現を目指した取組の成果が着実に上がっている。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
4	4			
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

夢づくり政策評価シート

整理番号	309
担当部局	企画振興部

1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	まち・むら活性化プログラム
プログラムの概要	中山間地域の活力ある発展を図るため、地域の個性や特色を生かした主体的・自立的取組や都市との交流促進を支援します。また、魅力ある街づくりに向けて、中心市街地活性化の支援、賑わい拠点の整備、快適な歩行者用空間の形成等を推進します。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
まちやむらの活性化に取り組んでいる団体数	団体	202	260	231	242				
(指標の説明)地域で自主的・主体的に活動する地域づくり団体の増加を目指すもの									
農山漁村交流施設の利用者数	万人/年	128	140	139	140				
(指標の説明)農山漁村地域の発展、活性化のために参考となる都市と農山漁村の相互交流の促進度合いを示すもの									
宇野港寄港客船乗客数	人/年	600	4,400	4,167	4,990				
(指標の説明)客船の寄港地として、宇野港を利用する客船の乗客人数の増加を目指すもの									

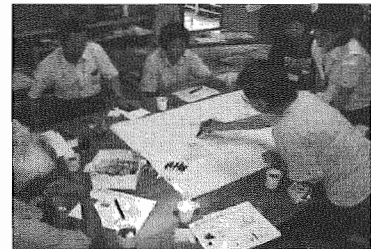
3 代表的な取組(Ⅰ)

「中山間地域の活性化」

●中山間地域等特別支援事業の実施

小規模高齢化集落など単独での維持が困難な集落を含む地域を9つ選定し、住民アンケートの実施、集落機能再編・強化計画の策定、地域の課題を解消する事業の実施等を支援した。

また、地域に適した交通手段の導入、地域の創意工夫を生かした活性化の取組を支援するとともに、生活・交流基盤の整備を進め、ソフト・ハードの両面から中山間地域の活性化を推進した。



地域での話し合いの様子

[地域の創意工夫を生かした取組事例]

「島波み博物館事業」:真鍋島では、高齢者の生きがい対策や観光案内の充実等のため、昔ながらの島の歴史・文化・生活環境等を素朴な観光資源と捉え、島全体を博物館とすることを目指し、公会堂を観光案内所として活用するなどの取組を行った。

●交流・定住の促進

県、市町村、民間団体等で構成する「岡山県交流・定住促進協働会議」を設立し、本県独自の交流・定住フェアを9月に大阪市内で開催した。また、岡山県での暮らしの魅力を紹介するPR用映像(DVD)を作成し、ホームページに掲載するなど、交流・定住の促進を図った。

さらに、定住に際し大きな課題となる住居の確保について、協働会議で空き家等の情報流通システムづくりを検討した。



おかやま交流・定住フェア2008

<協働の成果>

集落機能再編・強化モデル事業の実施、交流・定住促進協働会議の活動等を通じて、県、市町村と地元住民や民間団体との協働の取組が大きく前進した。

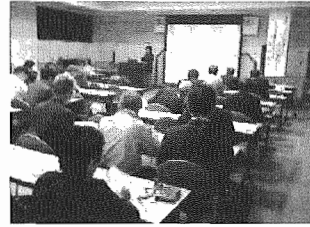
おかやま晴れの国ぐらし <http://okayama-inaka.jp/>

3 代表的な取組(Ⅱ)

「地域づくり団体の交流促進」

●地域づくり団体全県交流会の開催

和気町で「ひかり輝く地域をめざして」をテーマとして地域づくり団体全県交流会を開催し、慶應義塾大学の米田教授による「地方の活性化をめざして」と題した基調講演と5つの地域づくり団体による事例発表があり、活発な意見交換が行われた。



地域づくり団体の事例発表

●地域づくりポータルサイト“晴れの国づくりNET”の運用

“晴れの国づくりNET”を通じて地域づくり団体が活動状況や開催するイベント情報の発信を行うことにより、同様の地域づくり活動を行っている団体の情報交換やこれまで交流のなかった団体間での連携した活動の促進を図っている。

晴れの国づくりNET: <http://www.harenokuni.net/>

〈協働の成果〉

地域づくり団体の全県交流会は、開催地域の複数の地域づくり団体による自主的な企画運営を県がサポートする形で実施しており、協働による地域づくり団体の交流促進が図られている。また“晴れの国づくりNET”のサイトの運営企画を地域づくり団体に委託実施するなど県と地域づくり団体が緊密な連携のもとでサイトの運営を行った。

(参考数値)

	H19	H20	増減
地域づくり団体数	231	242	11

4 取り組むべき課題と対応方針

○中山間地域の活性化

集落機能再編・強化モデル地域での成果を、集落機能が低下している他の地域にも波及させ、小学校区、大字等の広域での地域運営への移行を図るとともに、関西圏をターゲットにした情報発信や住居の確保など交流・定住促進のための官民協働の取組を強化する。

○地域づくり団体の活性化

地域の個性を活かし、魅力あふれる地域づくり活動をより一層推進するため、各地域で活動を行っている地域づくり団体の情報交換や団体相互の交流活動を促進させるなど地域づくりのネットワーク化を図る。

5 総合評価

	プログラム達成レベル				
	H19	H20	H21	H22	H23
<p>夢づくり協働指標の達成状況はほぼ順調であり、目標達成が十分見込まれる水準と考えられる。</p> <p>今後、中山間地域の活性化を図るため、市町村、地元住民、民間団体等との協働による取組をより一層推進するとともに、まちの賑わいにつながる市町村等の取組を支援する必要がある。</p>	3	3			
	<p>5 目標水準を大きく上回った</p> <p>4 目標水準を上回った</p> <p>3 概ね目標水準</p> <p>2 目標水準を下回った</p> <p>1 目標水準を大きく下回った</p>				

夢づくり政策評価シート

整理番号	310
担当部局	企画振興部

1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	国際化プログラム
プログラムの概要	多様な主体による本県の特性を生かした国際貢献や様々な分野の国際交流の取組を支援するとともに、在住外国人が安心して暮らし、いきいきと活躍できる社会づくりを進めます。また、県内企業の海外事業展開の支援など経済国際化を推進します。

2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
地域共生サポーターの数	人	0	120	78	99					
(指標の説明) 地域と在住外国人とのパイプ役となるボランティアの育成を目指すもの										
国際救援物資備蓄事業参加者・団体数	人・団体	927	1,520	1,113	1,244					
(指標の説明) 広く県民等の協力を得て救援物資の備蓄を行うもの										
貿易額	億円/年	23,134	31,600	35,244	42,216					
(指標の説明) 海外との経済活動の活発化を目指すもの										

3 代表的な取組(I)

「国際救援活動の推進」

救援物資の提供について、公設国際貢献大学校が設置したももたろう国際救援隊を通じて、ミャンマーサイクロン災害の際、テント、シュラフ、貯水用タンク、土のう袋、防水シートを、また、中国・四川大地震の際、毛布、テント、シュラフを被災地に提供した。

- ・ミャンマーサイクロン災害: テント10、シュラフ180、貯水用タンク400、土のう袋2,000、防水シート200(搬出日: H20.5.14)
- ・中国・四川大地震: 毛布500、テント5、シュラフ150(搬出日: H20.5.24)

特に、中国・四川大地震の際には、中国東方航空の協力を得て、岡山空港から中国へ直接救援物資を提供した。

<協働の成果>

救援物資は、県自ら購入するとともに、県民等からも寄付を受けて救援物資備蓄センターに備蓄し、海外で大規模な災害等が発生した際には国際貢献活動を行う県内NGO等を通じて、被災地に提供している。平成20年度は、ミャンマーサイクロン、中国・四川大地震の際に、被災地に救援物資を提供し、NGOと連携した岡山発の国際貢献を実現した。

(参考数値)

	H19	H20	増減
国際救援物資備蓄事業参加者・団体数	1,113	1,244	131
	人・団体	人・団体	人・団体



救援物資提供の様子

岡山県国際貢献ポータルサイトHP

<http://www.pref.okayama.jp/kikaku/kokusai/kouken/koukentop.htm>

3 代表的な取組(Ⅱ)

「海外ビジネスサポートデスクによる支援」

平成20年2月に中国・大連市及びベトナム・ハノイ市に設置した「岡山県海外ビジネスサポートデスク」により、県内企業の海外進出をはじめ、販路や取引先の開拓・拡大など、県内企業のグローバルな事業展開を現地で支援した。

<協働の成果>

現地のビジネス事情に精通するとともに、豊富なノウハウとネットワークを有する現地企業・団体にサポート業務を委託し、民間の感覚を生かしたタイムリーできめ細かい支援を実施した。

※サポートデスクの主な業務

(1) 県内企業等支援業務

現地での事業展開に関するアドバイス、商談先企業の紹介やアポイントメントの手配、視察先への同行や現地事情のレクチャー、見本市・商談会の出展支援、現地情報の収集・提供など

(2) 県施策支援業務

毎月の現地情報レポート作成や現地のビジネス情報等の収集・提供、商談会等の開催など

(参考数値)

ビジネスサポートデスクへの相談件数	H19	H20	増減
	11	22	11



サポートデスクの支援で行われた商談会の様子

岡山県海外ビジネスサポートデスク情報サイト

<http://www.pref.okayama.jp/sangyo/sanki/supportdesk/index.html>

4 取り組むべき課題と対応方針

○ 世界に開かれた国際活動の推進

国際交流・国際貢献活動に対する県民の理解と参加が広まりつつあるものの、より一層推進する必要がある、国際貢献団体等との協働により、県民・NGO等との連携を一層進めていく。また、在住外国人の増加を背景に、多文化共生社会の実現に向けた取組を推進する。

○ 経済のグローバル化への対応

経済のグローバル化が進展する中で、多くの県内企業が国際的な事業展開を進めているが、世界同時不況の影響や各企業のニーズを把握した上で、関係機関と連携を図りながら、きめ細やかな支援を行っていく。また、海外での県産農林水産物のPR・販路拡大を推進するため、本県の誇る高品質な果物を核に、東アジア等での地位確立を目指した取組を引き続き進める。

5 総合評価

	プログラム達成レベル				
	H19	H20	H21	H22	H23
<p>夢づくり協働指標の進捗状況は、いずれも目標値に対して概ね順調に推移している。</p> <p>国際貢献活動として、NGO等との協働による開発途上地域の自立支援や災害の際の物資提供を行っている。また、地域共生サポーターの育成等により、在住外国人が暮らしやすい環境の整備に努めている。</p> <p>また、経済のグローバル化への対応として、投資有望国・地域にターゲットを絞ったネットワークづくりを進めるとともに、海外企業との商談会の開催など具体的な成果につながる事業を行うことにより、県内企業の国際的な事業展開を支援している。</p>	4	4			
	<p>5 目標水準を大きく上回った</p> <p>4 目標水準を上回った</p> <p>3 概ね目標水準</p> <p>2 目標水準を下回った</p> <p>1 目標水準を大きく下回った</p>				